

袋井市駅前第二地区土地区画整理事業
に伴う発掘調査報告書 18

平成18年度

掛之上遺跡50・53・56

— 写真図版編 —

2007

静岡県袋井市教育委員会
袋井市役所都市建設部区画整理課



平成 18 年度

掛之上遺跡50・53・56

－ 写真図版編 －

2007

静岡県袋井市教育委員会
袋井市役所都市建設部区画整理課

例 言

1. 本書は、平成18年度に袋井市教育委員会と袋井市役所都市建設部区画整理課が実施した、掛^{かけ}之^の上^{うえ}遺跡の第50・53・56次発掘調査報告書写真図版編（まちづくり交付金民間築造推進事業分報告書）である。ただし、第56次調査区は南側の西通掛之上線歩道区1部分を含めて報告した。
2. 本発掘調査は袋井市教育委員会松井一明を発掘調査の担当者として実施した。
3. 本調査に係る事務については、袋井市役所都市建設部区画整理課公共施工係が行った。特に、公共施工係の久永豊彦、小池恵子、杉山資治、藤原資郎、大澤勇人、松井健尋の各氏には、現場と事務に関して円滑な調整をして頂いた。ここに記して感謝いたします。
4. 本書の編集は松井が行った。
5. 本書に使用した現場写真のうち、空中全景写真については株式会社フジヤマが撮影し作成したものを、その他遺構個別写真については松井が撮影したものを使用した。
6. 本調査で得た資料については、すべて袋井市教育委員会が保管している。

写真図版目次

- 巻頭カラー図版1 (1) 第50次発掘調査区空中写真全景 (2) 第53次発掘調査区空中写真全景
巻頭カラー図版2 (1) 第53次発掘調査区空中写真全 (2) 第53次発掘調査区SH1
巻頭カラー図版3 (1) 第56次発掘調査区空中写真全景 (2) 第56次発掘調査区空中写真全景
巻頭カラー図版4 (1) 第56次発掘調査区方形周溝墓群 (2) 第56次発掘調査区方形周溝墓群
図版1 (1) 第50次発掘調査区空中写真全景 (2) 第50次発掘調査区空中写真全景
図版2 (1) 第50次発掘調査区空中写真全景 (2) 第50次発掘調査区全景
図版3 (1) SB33 (2) SB33
図版4 (1) SB33かまど (2) SB33かまど付近遺物
図版5 (1) SB34 (2) SB35
図版6 (1) SK102・SP41 (2) SP41
図版7 (1) SK104 (2) SK105
図版8 (1) SK107 (2) SK109
図版9 (1) SK110 (2) SK111・112
図版10 (1) 焼土1 (2) SD37
図版11 (1) SD40・43 (2) SD42
図版12 (1) 調査区南壁西より土層 (2) 重機による表土掘削作業風景
図版13 (1) 人力による作業風景 (2) ラジコンヘリによる写真撮影と測量風景
図版14 (1) 第53次発掘調査区空中写真全景 (2) 第53次発掘調査区空中写真全景
図版15 (1) 第53次発掘調査区空中写真全景 (2) 第53次発掘調査区全景
図版16 (1) SB5 (2) SB5
図版17 (1) SB5炉跡1 (2) SB5炉跡2
図版18 (1) SH1と区画溝 (2) SH1
図版19 (1) SH1と区画溝 (2) SH1-P6土層
図版20 (1) SH1-P6 (2) SH1-P7
図版21 (1) SH1-P9土層 (2) SH1西側区画溝土層
図版22 (1) 調査区北東柱穴群 (2) SD16
図版23 (1) SD16 (2) SD16調査区東端土層
図版24 (1) SD20 (2) SE20
図版25 (1) SK36 (2) SK37
図版26 (1) SK39 (2) SK42
図版27 (1) SP25 (2) SP36
図版28 (1) SP50 (2) 調査区西壁土層
図版29 (1) 重機による表土掘削作業風景 (2) 人力による作業風景
図版30 (1) 第56次発掘調査区空中写真遠景 (2) 第56次発掘調査区空中写真全景
図版31 (1) 第56次発掘調査区空中写真全景 (2) 第56次発掘調査区全景
図版32 (1) SH4・5 (2) SH4
図版33 (1) SH4 (2) SH4-P3土層
図版34 (1) SH4-P10土層 (2) SH4-P10
図版35 (1) SH4-P14・15 (2) SH5

- 図版36 (1) SH5 (2) SH5-P13土層
 図版37 (1) SH5-P13 (2) SZ1
 図版38 (1) SZ1北溝土層 (2) SZ1北溝西端
 図版39 (1) SZ1東溝内土器棺 (2) SZ1西溝土層
 図版40 (1) SZ1西溝出土土器 (2) 方形周溝墓群
 図版41 (1) 方形周溝墓群 (2) SZ10・17
 図版42 (1) SZ10南溝土層 (2) SZ10南溝出土土器
 図版43 (1) SZ10南溝出土土器 (2) SZ10南溝出土土器
 図版44 (1) SZ10南溝出土土器 (2) SZ17西溝土層
 図版45 (1) SZ13 (2) SZ14
 図版46 (1) SZ14 (2) SZ14南コーナー
 図版47 (1) SZ14・18間墓道 (2) SZ14・18間墓道
 図版48 (1) SZ14北溝土層 (2) SZ14東溝土層
 図版49 (1) SZ14東溝出土土器 (2) SZ14西溝出土土器
 図版50 (1) SZ14西溝土層・出土土器 (2) SZ15
 図版51 (1) SZ16 (2) SZ14南溝・SZ16北溝土層
 図版52 (1) SZ16東溝土層 (2) SZ16東溝出土土器
 図版53 (1) SZ16東溝出土土器 (2) SZ16東溝出土土器
 図版54 (1) SZ16東溝出土土器 (2) SZ18・19
 図版55 (1) SZ18・19 (2) SZ10・17~19
 図版56 (1) SZ19南溝 (2) SZ18北溝出土土器
 図版57 (1) SZ18北溝出土土器 (2) SZ18北溝出土土器
 図版58 (1) SZ18南溝土層 (2) SZ18南溝出土土器
 図版59 (1) SZ18南溝出土土器 (2) SZ18南溝出土鉄器
 図版60 (1) SZ18南溝出土土器 (2) SZ18南溝出土土器
 図版61 (1) SZ18南溝出土土器 (2) SZ18南溝土器棺1
 図版62 (1) SZ18南溝土器棺2 (2) SZ18南溝土器棺3
 図版63 (1) SZ10西溝・SZ18東溝土層 (2) SZ18東溝出土土器
 図版64 (1) SZ18東溝出土土器 (2) SZ18東溝出土土器
 図版65 (1) SZ18東溝出土土器 (2) SZ18東溝出土土器
 図版66 (1) SD7 (2) SD7土層
 図版67 (1) SD30 (2) SD30土層
 図版68 (1) SK38 (2) SP10
 図版69 (1) 調査区西壁中央の土層 (2) 歩道区1の空中写真全景
 図版70 (1) 歩道区1の空中写真全景 (2) SZ1東溝
 図版71 (1) SZ1西溝 SD7 (2) 重機による表土掘削作業風景
 図版72 (1) 人力による作業風景 (2) ラジコンヘリによる写真撮影と測量風景

※表紙写真 第56次発掘調査区掘立柱建物・区画溝（奈良時代の郡衙正倉院に係わる倉庫関連建物と思われる。2棟が直列して南北方向に並び、これら建物と並行して正倉院西辺を区画する溝が見られる。北より）

写真図版



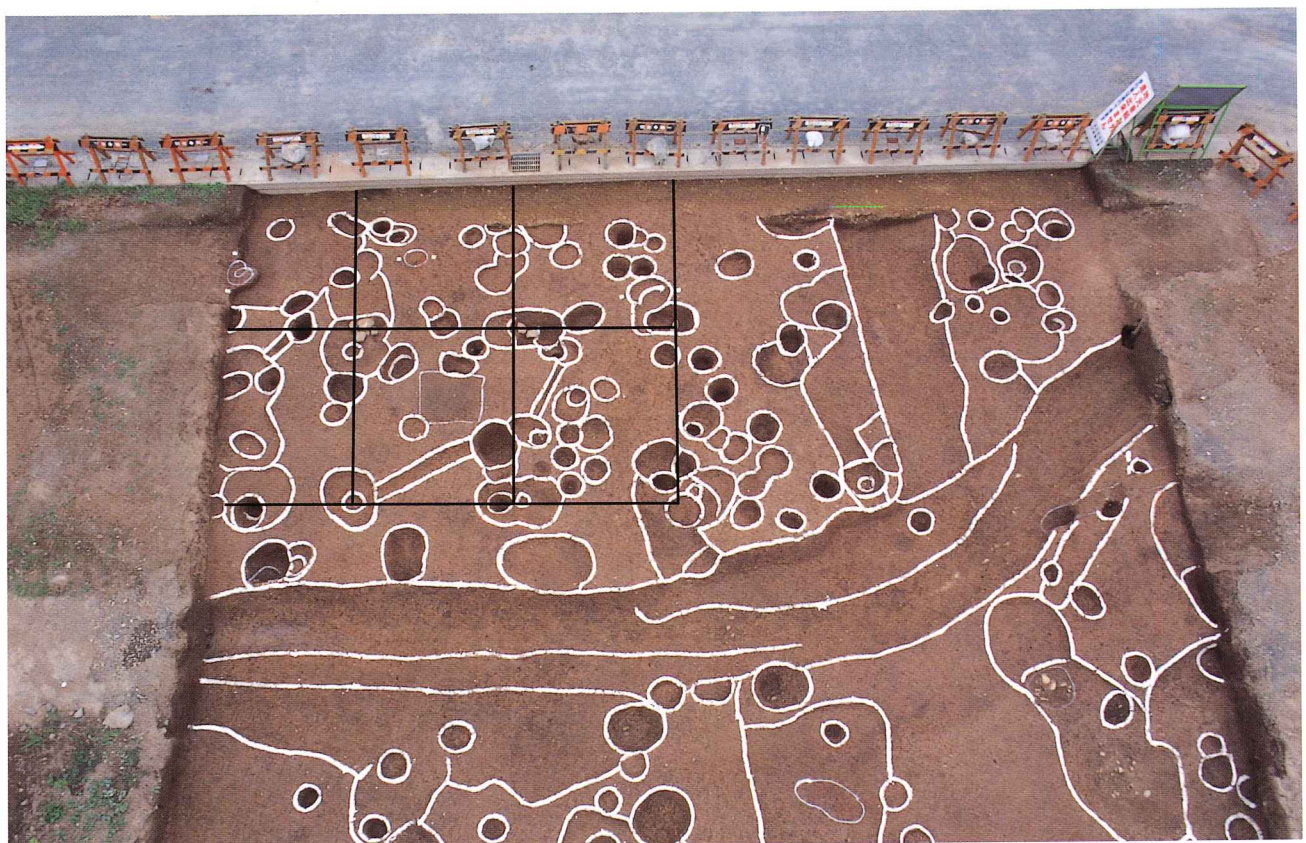
(1) 第50次発掘調査区空中写真全景
(弥生後期と古墳後期の竪穴住居や土坑が密集して見られる。東より)



(2) 第53次発掘調査区空中写真全景
(弥生後期の区画溝に囲まれた掘立柱建物や奈良時代の区画溝が見られる。北より)



(1) 第53次発掘調査区空中写真全景
(右手の奈良時代の区画溝は郡衙正倉院北辺を区画するものと思われる。北より)



(2) 第53次発掘調査区SH1
(弥生後期の区画溝に囲まれた掘立柱建物で、総柱建物であるため祭祀関連建物の可能性がある。北より)



(1) 第56次発掘調査区空中写真全景
(弥生後期主体の方形周溝墓や奈良時代の掘立柱建物と区画溝が見られる。北より)



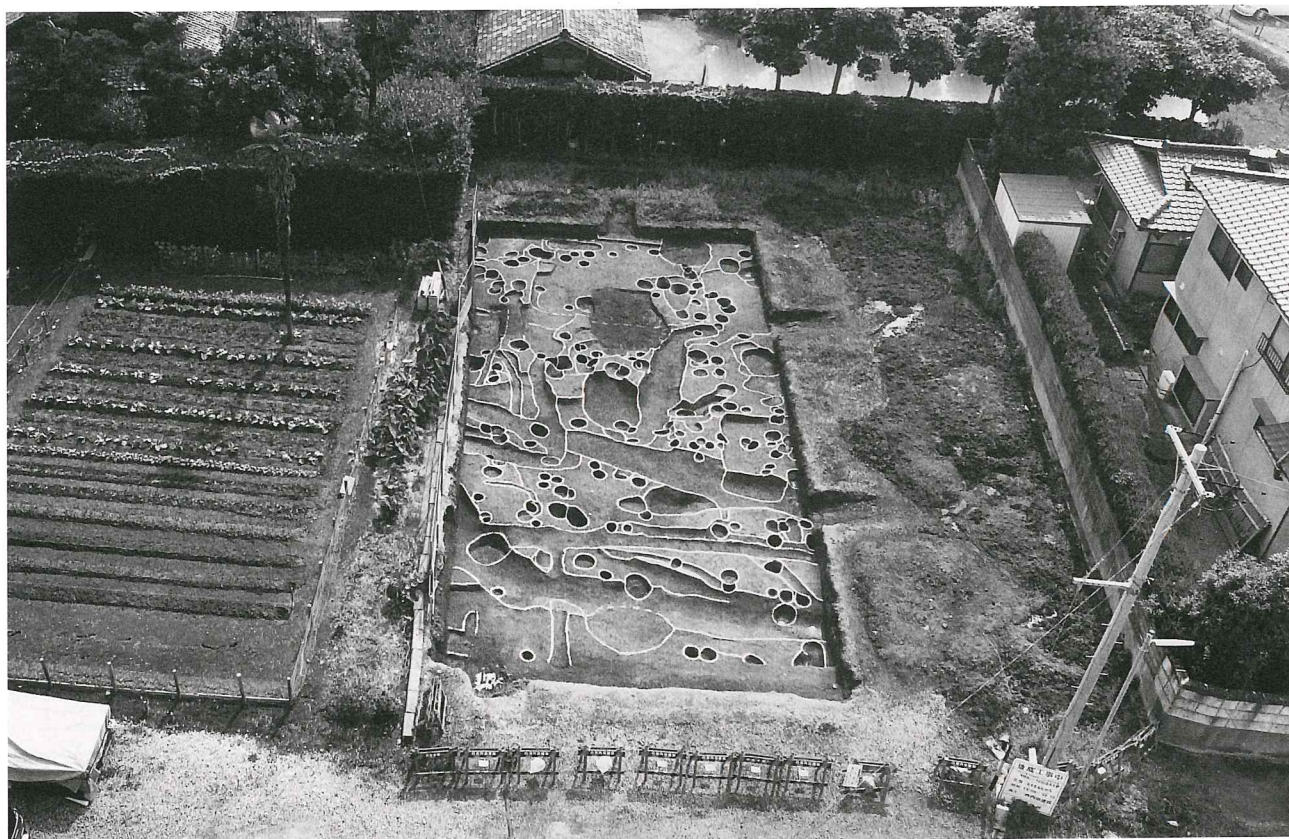
(2) 第56次発掘調査区空中写真全景
(奈良時代の掘立柱建物2棟が南北方向に直列に配置され、区画溝が並行して掘られている。東より)



(1) 第56次発掘調査区方形周溝墓群
(弥生後期の方形周溝墓が接続し、重列方向に築造されている。南より)



(2) 第56次発掘調査区方形周溝墓群
(四隅がつながる弥生後期の方形周溝墓が主体である。北より)



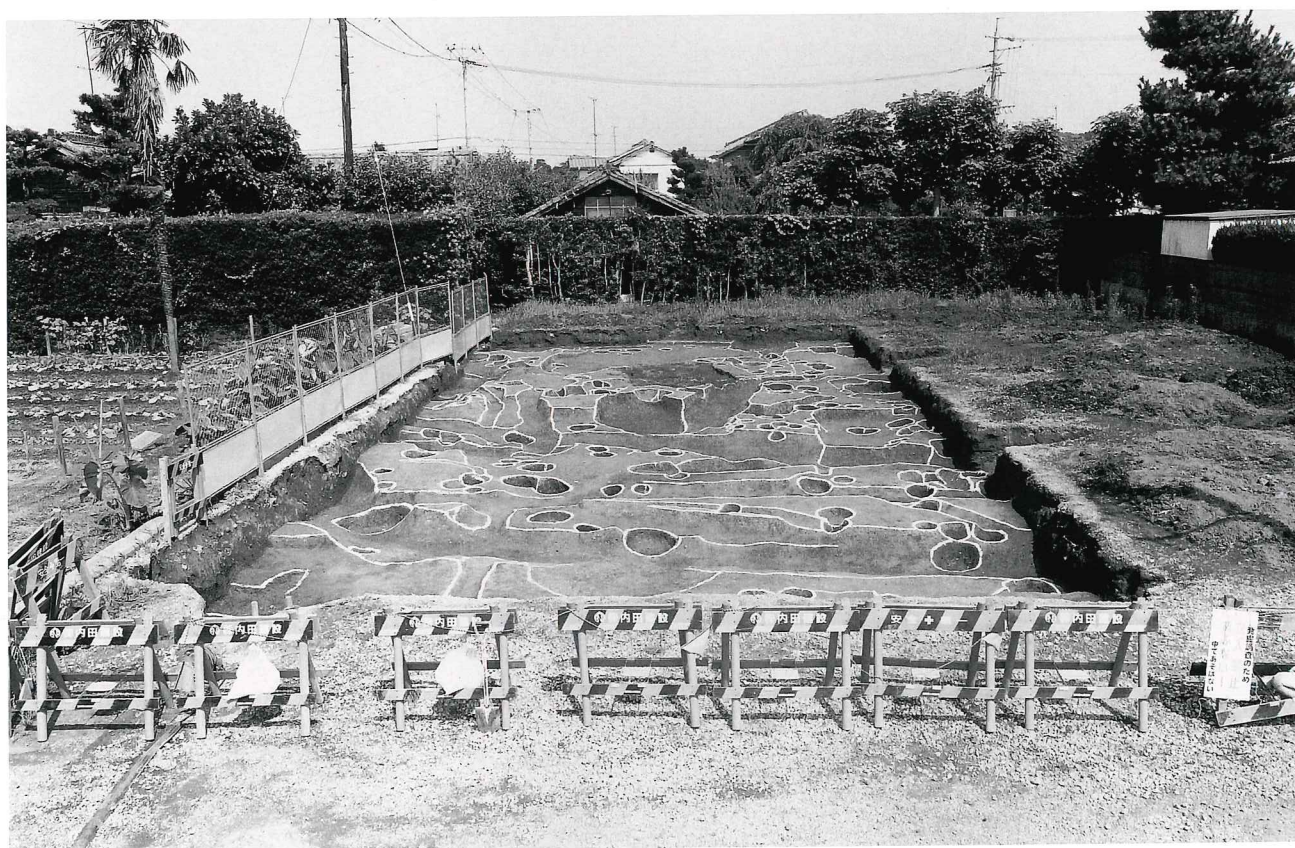
(1) 第50次発掘調査区空中写真全景
(弥生後期と古墳後期の竪穴住居や土坑が密集して見られる。西より)



(2) 第50次発掘調査区空中写真全景
(竪穴住居のほか全面に柱穴が見られ、掘立柱建物の存在も考えられる。南より)



(1) 第50次発掘調査区空中写真全景
 (溝は弥生後期を一部含むが、南北方向のものは江戸末期～明治時代の
 区画溝である。上が北である。真上より)



(2) 第50次発掘調査区全景 (西より)



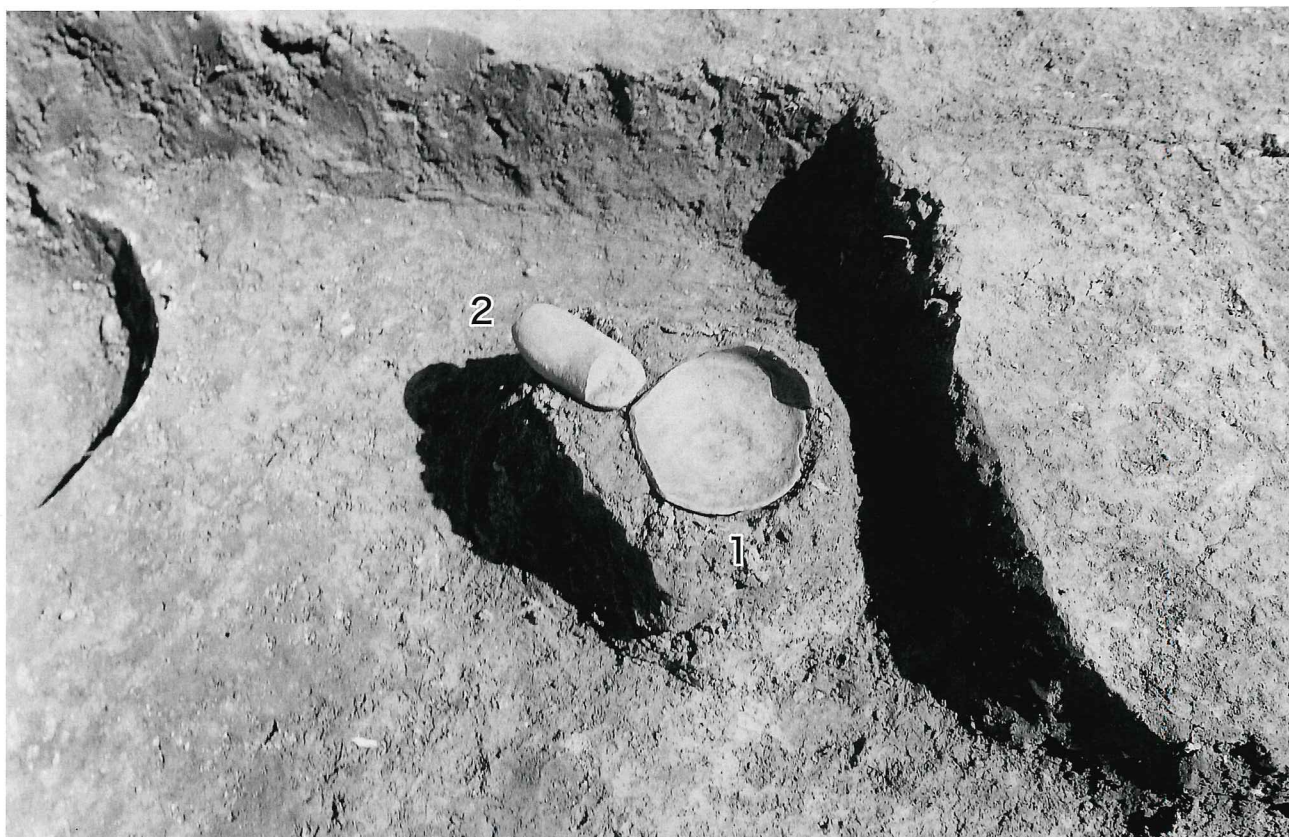
(1) S B33
(古墳後期の竪穴住居で北側の壁にはかまどが、南壁付近には貯蔵穴が見られる。南より)



(2) S B33 (壁溝の一部や柱穴は確認できたが残りは良くない。西より)



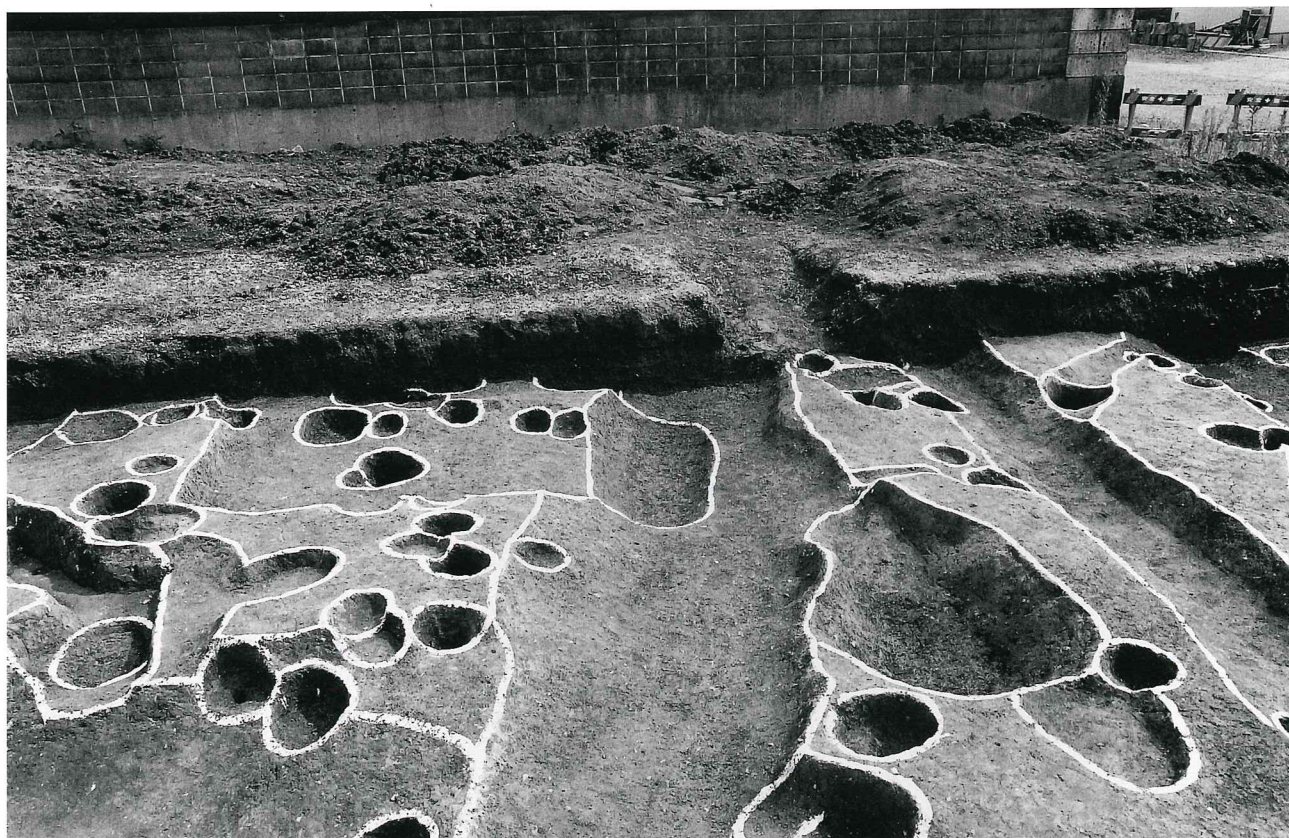
(1) S B33かまど
(煙道は確認できなかった。西側に須恵器と叩石が出土した。南より)



(2) S B33かまど付近遺物
(須恵器の坏蓋と叩石が床面より浮いた状態で出土した。南より)

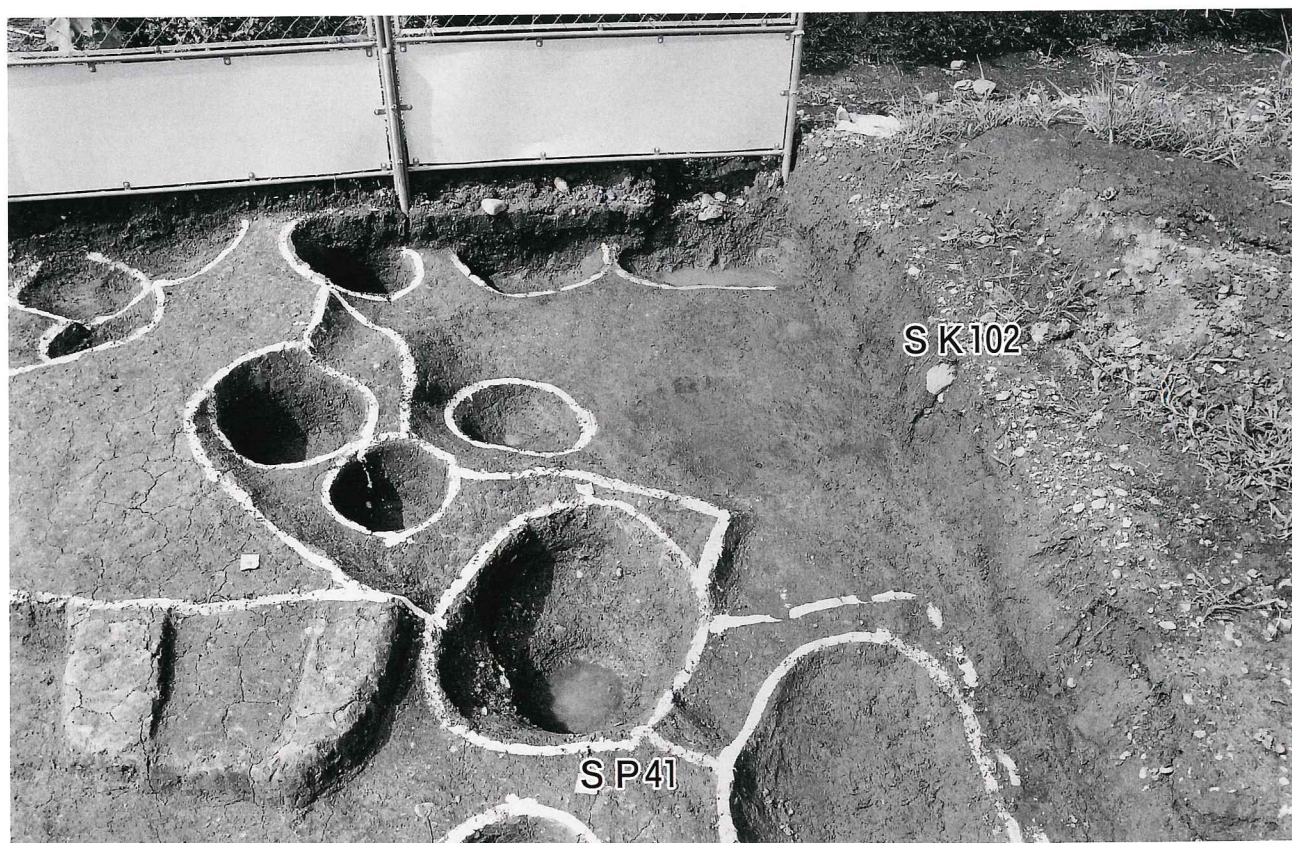


(1) S B34 (弥生後期の竪穴住居か、調査面積が狭く時期不明。南より)

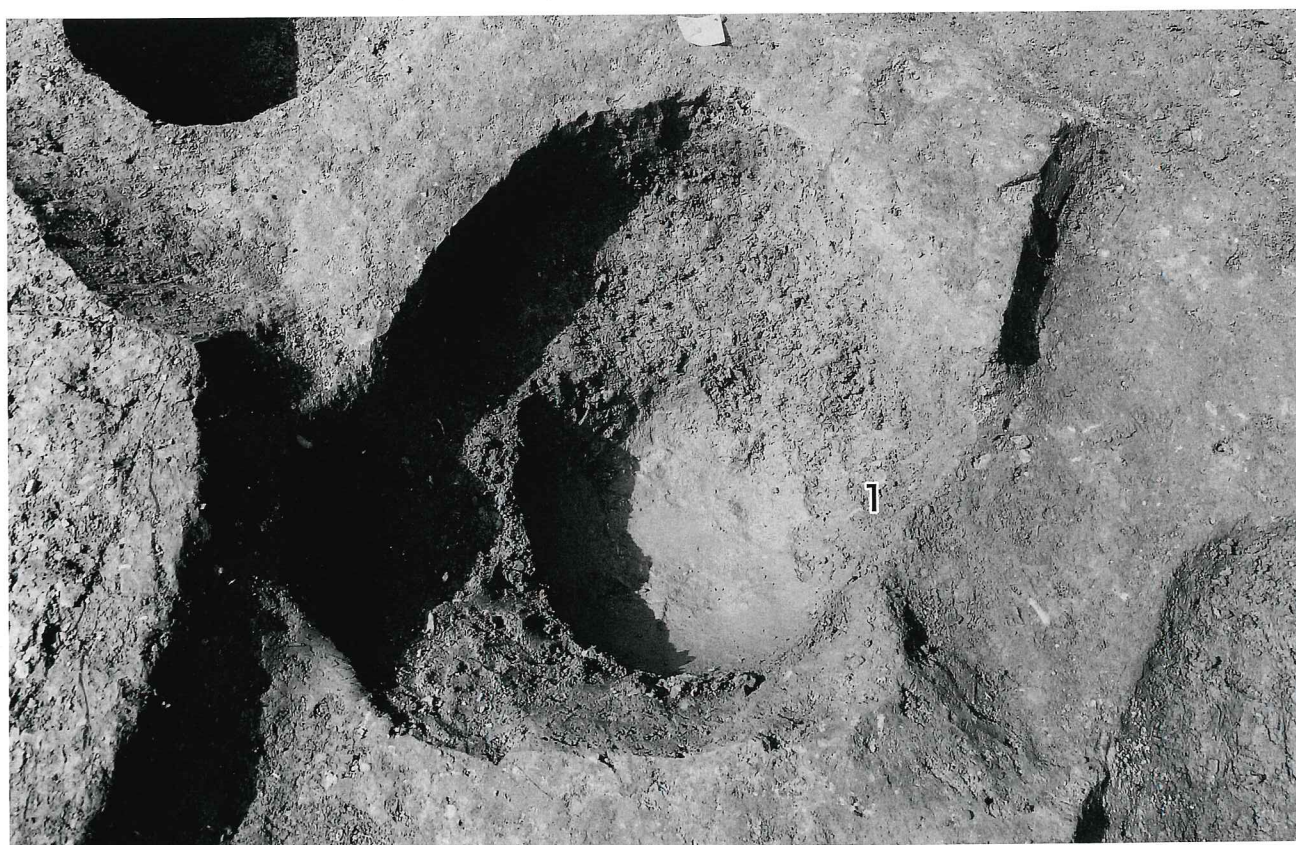


(2) S B35

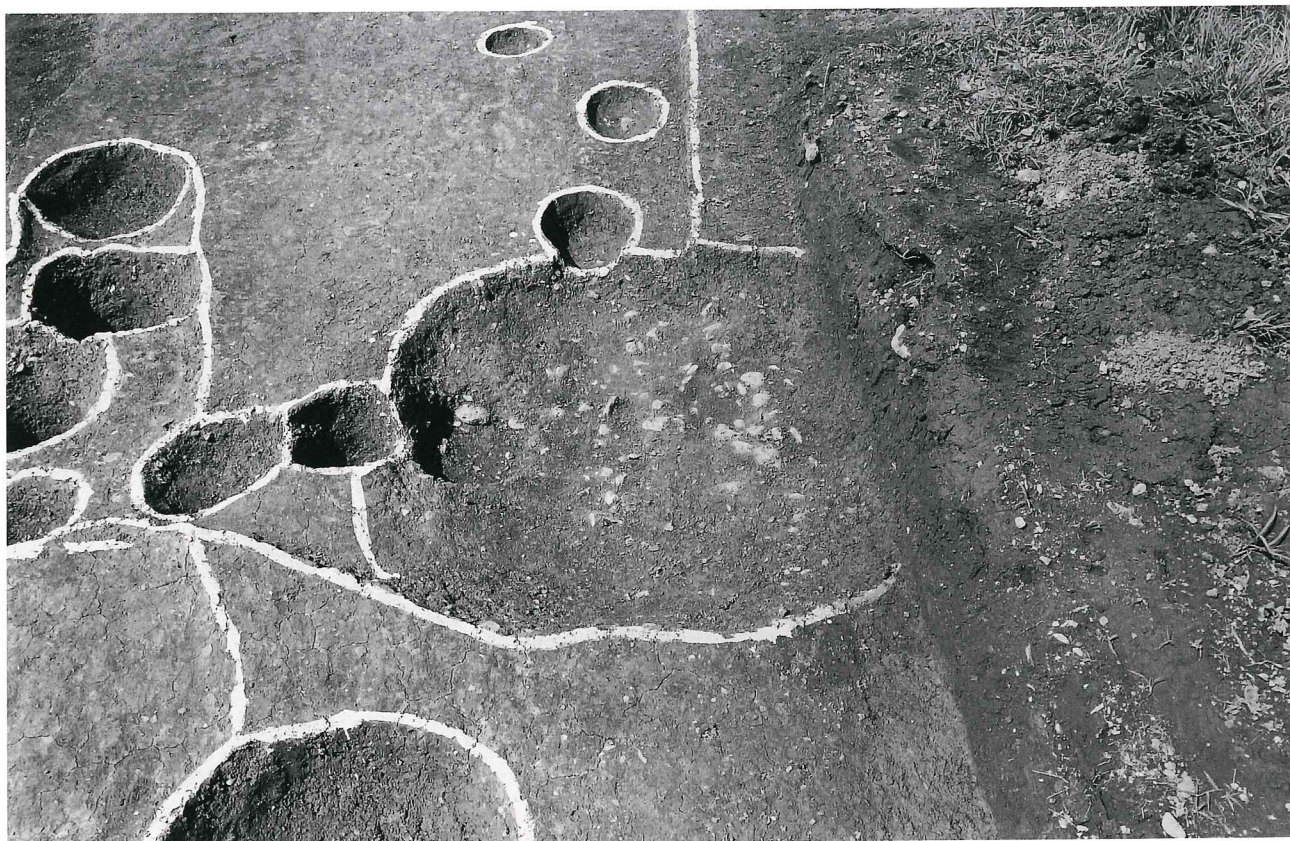
(古墳後期の竪穴住居か、調査面積が狭く時期不明。かまどは溝で壊されたと思われる。北より)



(1) S K102・S P41 (土坑は古墳後期の大型土坑。南より)



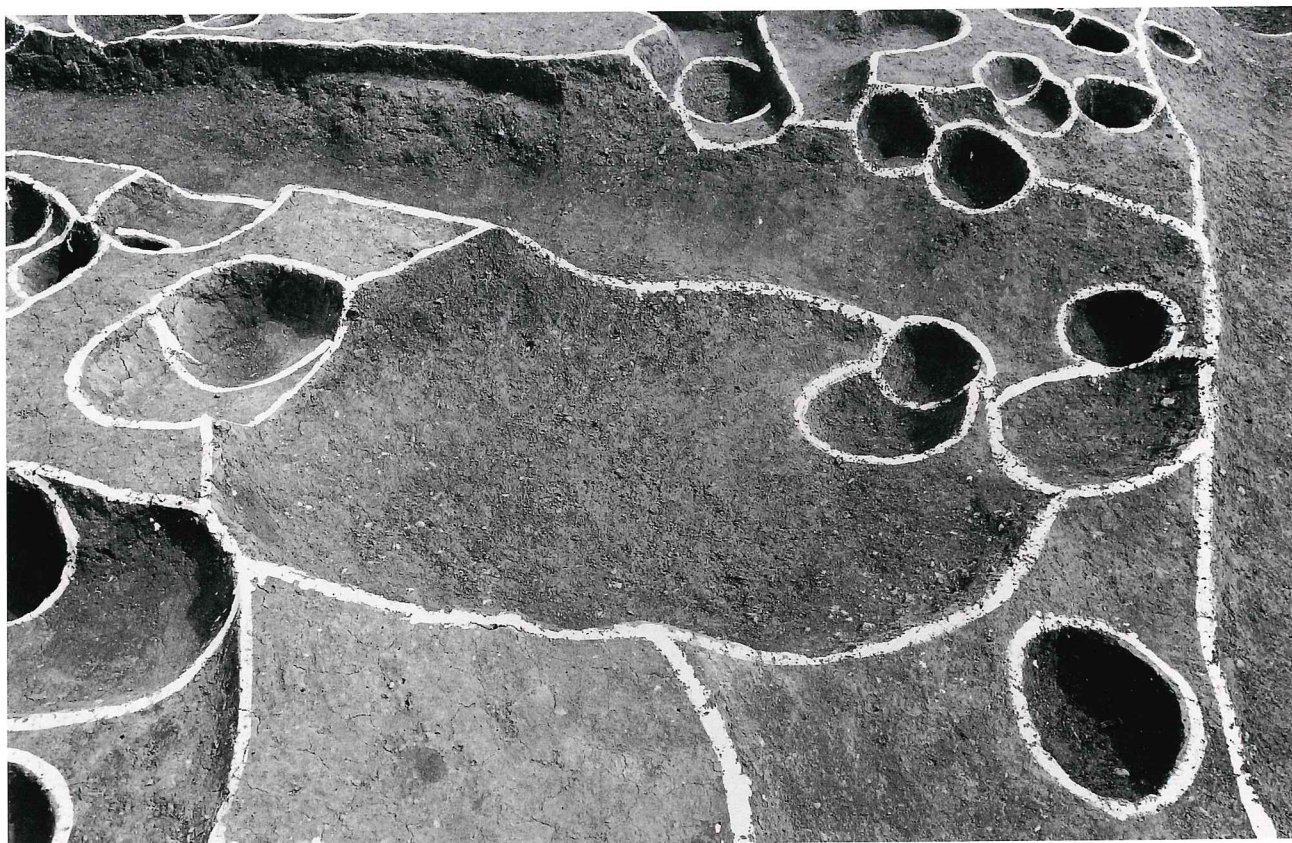
(2) S P41 (弥生後期前葉の壺形土器が出土した。貯蔵穴か。南より)



(1) S K104 (弥生後期後葉の円形土坑。廃棄土坑か。南より)



(2) S K105 (弥生後期後葉の楕円形土坑。廃棄土坑か。東より)



(1) S K107

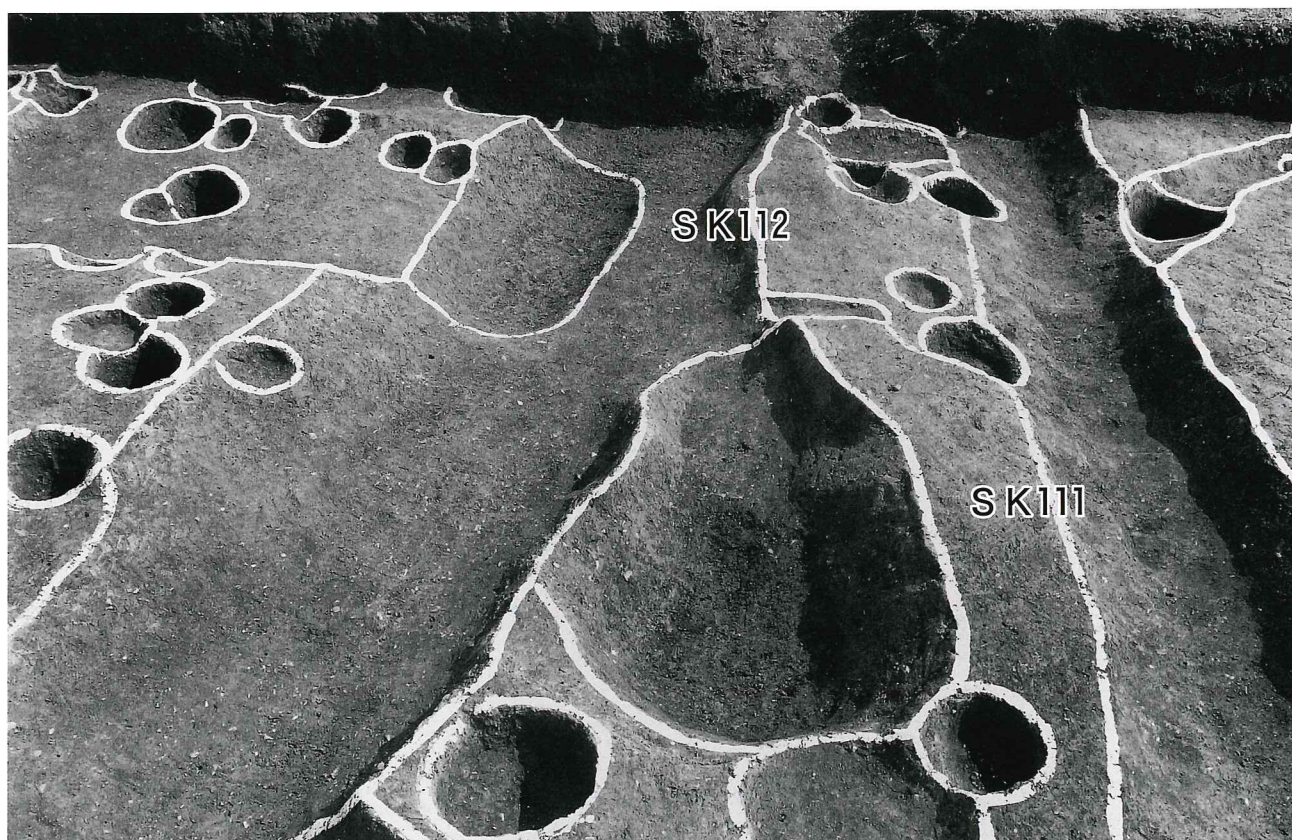
(弥生後期後葉の楕円形土坑。土器片がまとまって出土した。廃棄土坑か。北より)



(2) S K109 (江戸末期～明治時代の土坑。廃棄土坑か。東より)

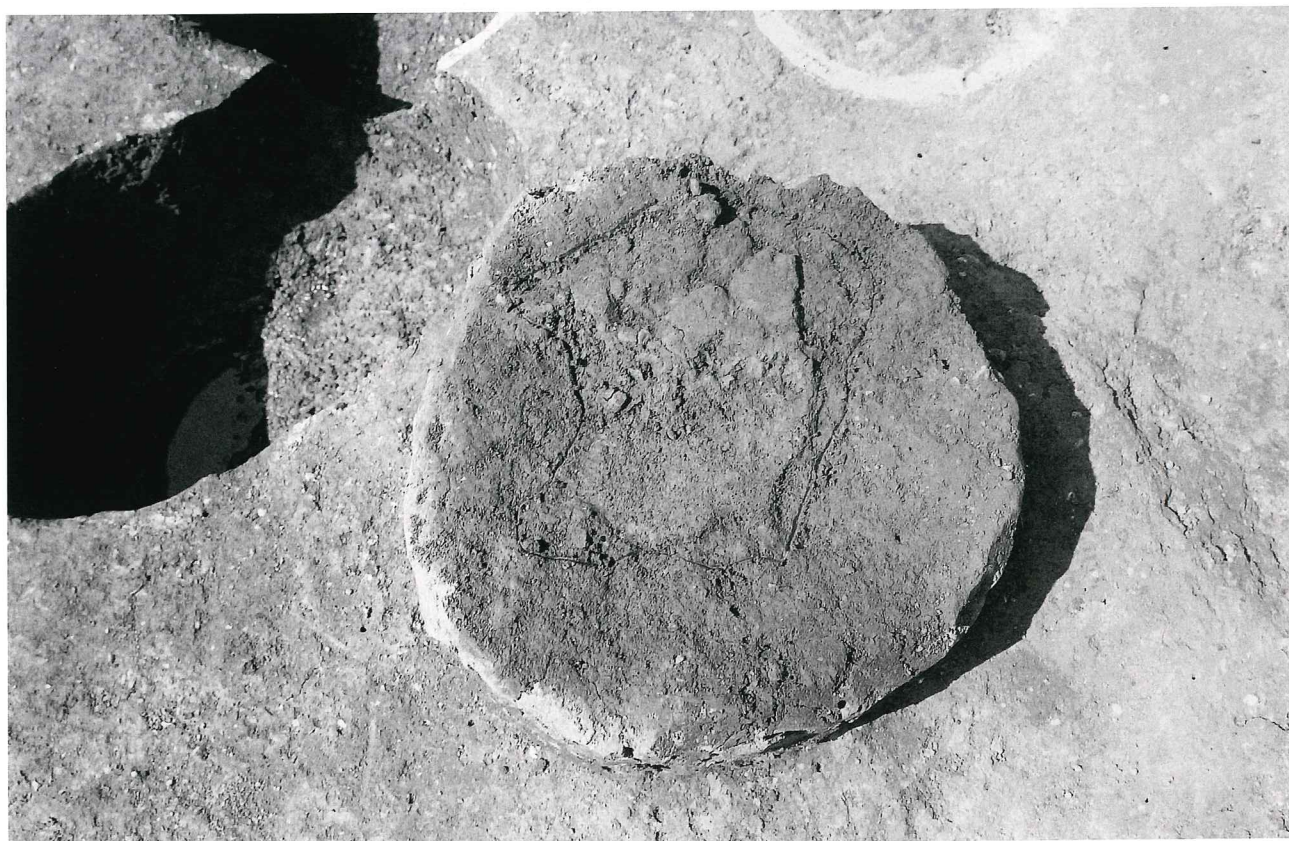


(1) SK110 (戦国期の土坑で陶磁器が出土した。北より)



(2) SK111・112

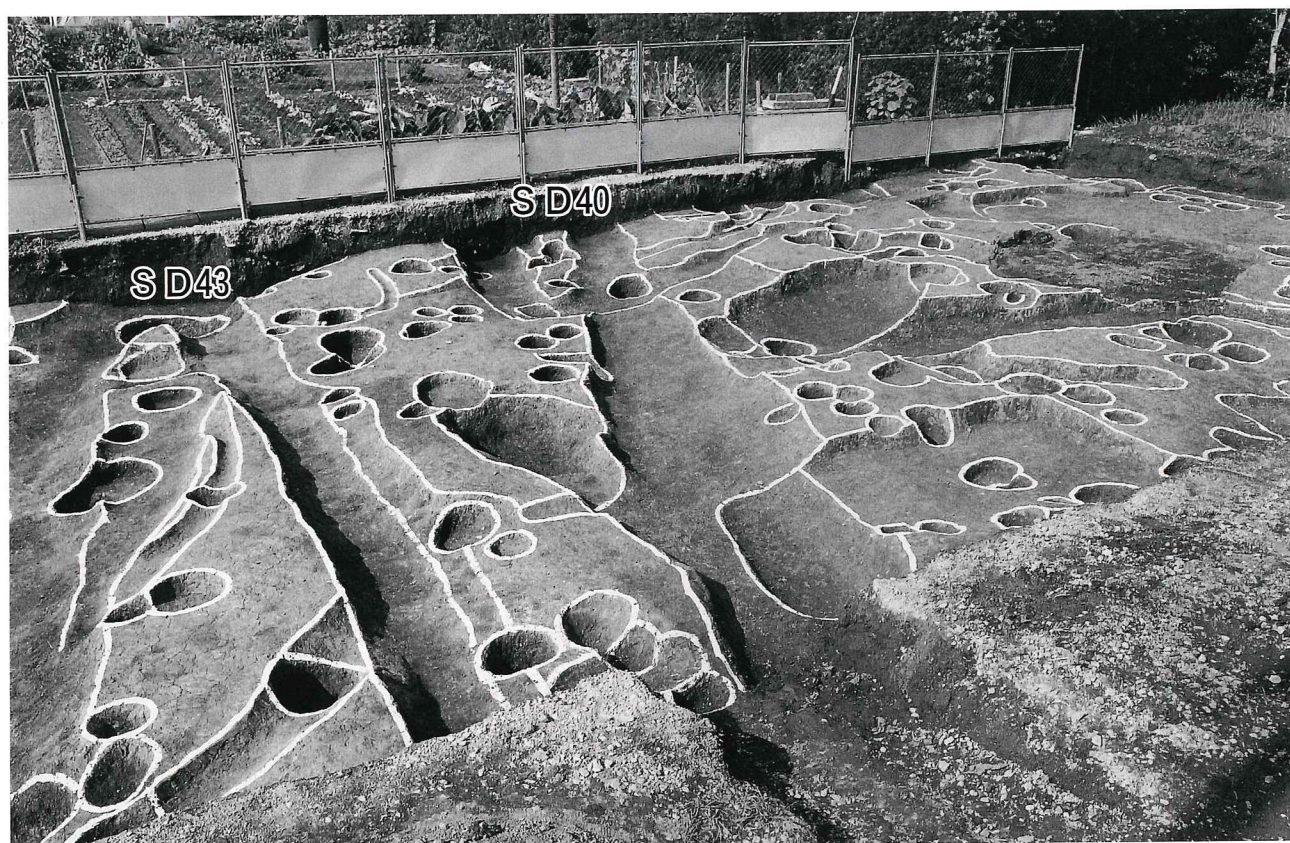
(SK111は弥生後期後葉の楕円形土坑で、SK112は時期不明である。北より)



(1) 焼土1 (包含層中より検出され、時期は不明である。南より)



(2) S D37 (弥生後期の溝であるが、短い溝である。東より)



(1) S D40・43

(S D40については戦国期、S D43は江戸末期～明治時代の区画溝である。南より)



(2) S D42 (S D42は戦国期の区画溝の可能性はある。南より)



(1) 調査区南壁西より土層
(30cm表土の下20cmの包含層が確認できたが、北側では包含層が薄かった。北より)



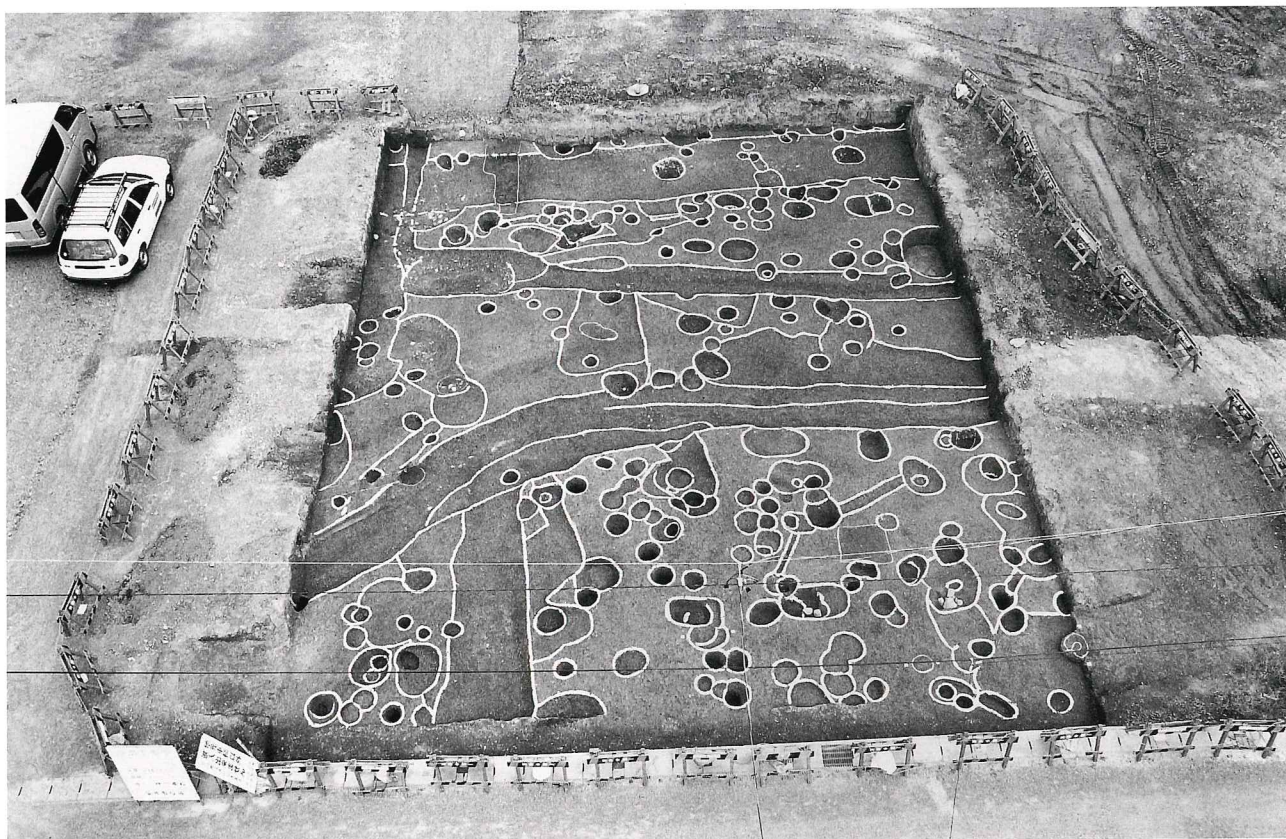
(2) 重機による表土掘削作業風景
(一部包含層が存在していたが、概ね遺構確認面まで表土掘削をすることができた。)



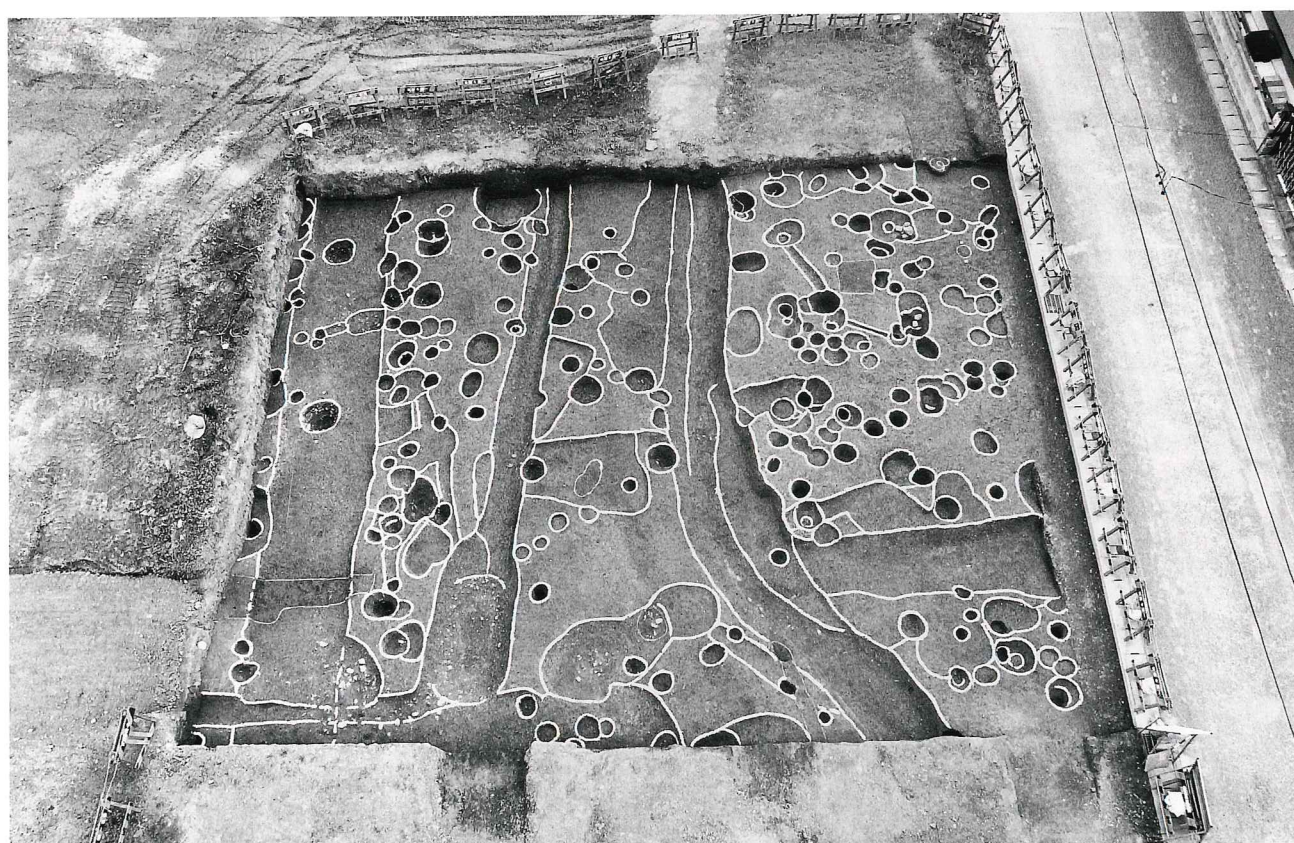
(1) 人力による作業風景



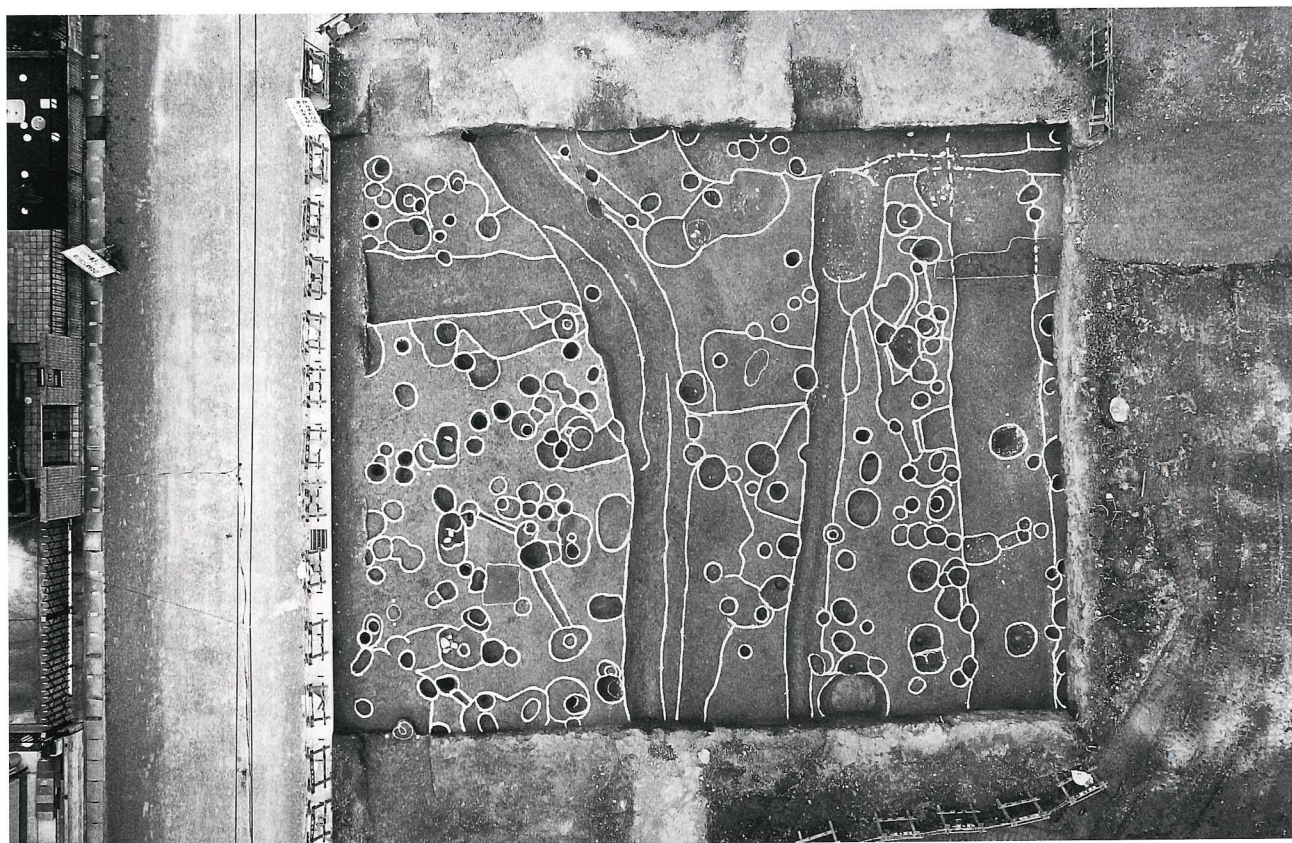
(2) ラジコンヘリによる写真撮影と測量風景



(1) 第53次発掘調査区空中写真全景
(弥生中・後期の竪穴住居と掘立柱建物が重複して発見された。南より)



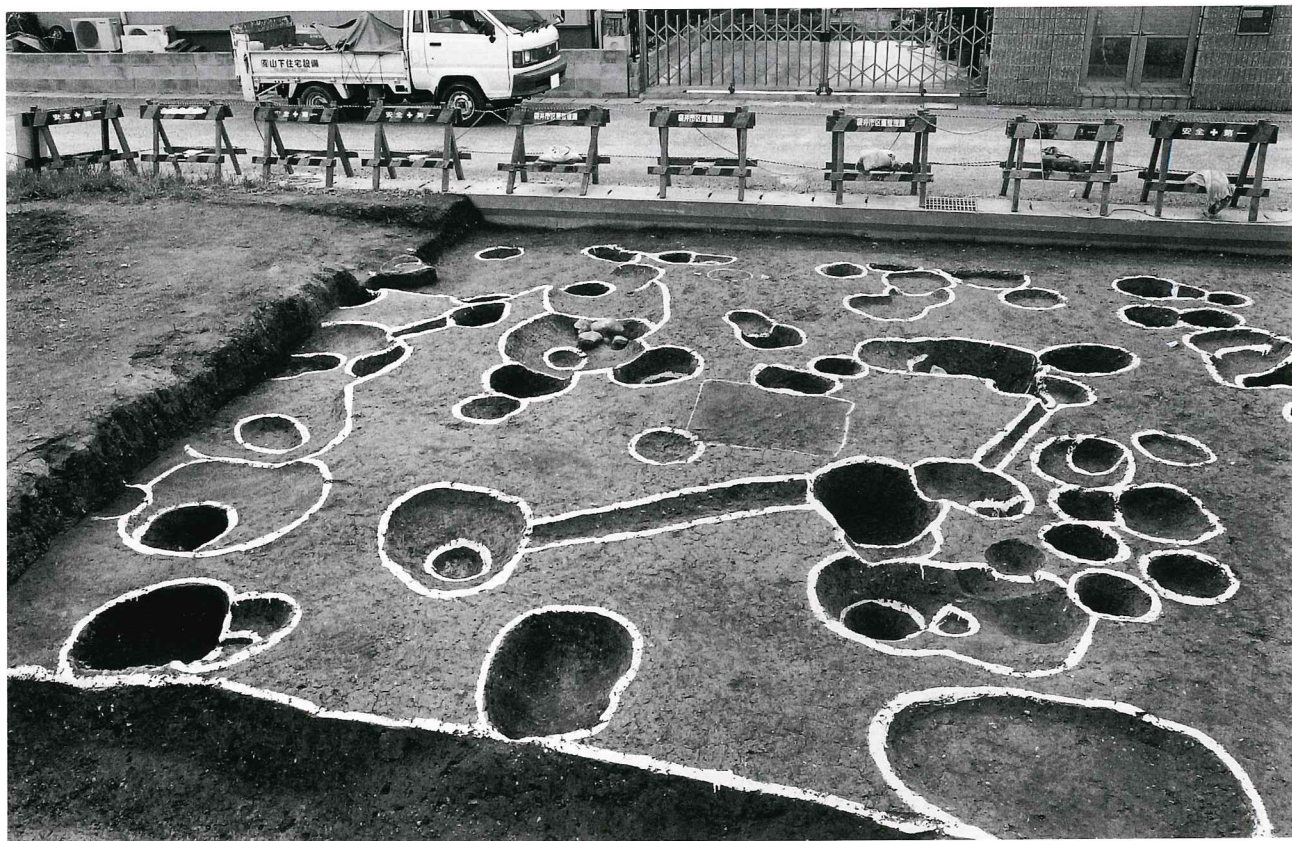
(2) 第53次発掘調査区空中写真全景
(左側には奈良時代郡衙正倉院北辺を区画する溝が見られる。
右側のL字形の溝は弥生後期の掘立柱建物を囲む区画溝である。西より)



(1) 第53次発掘調査区空中写真全景
(全面に弥生～古墳後期の柱穴が密集しており、居住域であることが分かる。上が西である。真上より)



(2) 第53次発掘調査区全景 (北より)



(1) SB5

(弥生後期の竪穴住居で、掘立柱建物(SH1)と重複する。
切合関係からは掘立柱建物のほうが新しい。北より)



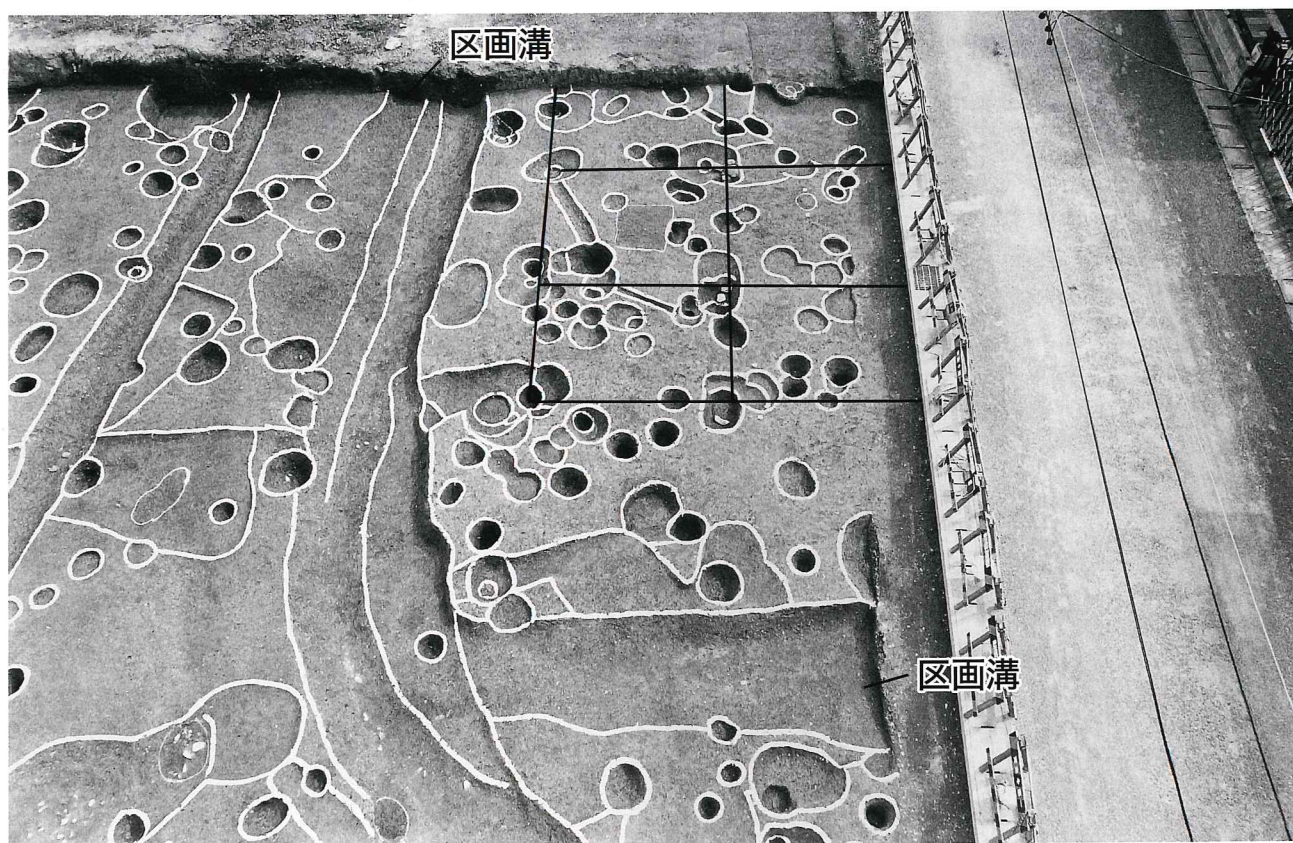
(2) SB5 (壁溝がめぐるが、浅く全周しない。炉跡は2箇所認められた。西より)



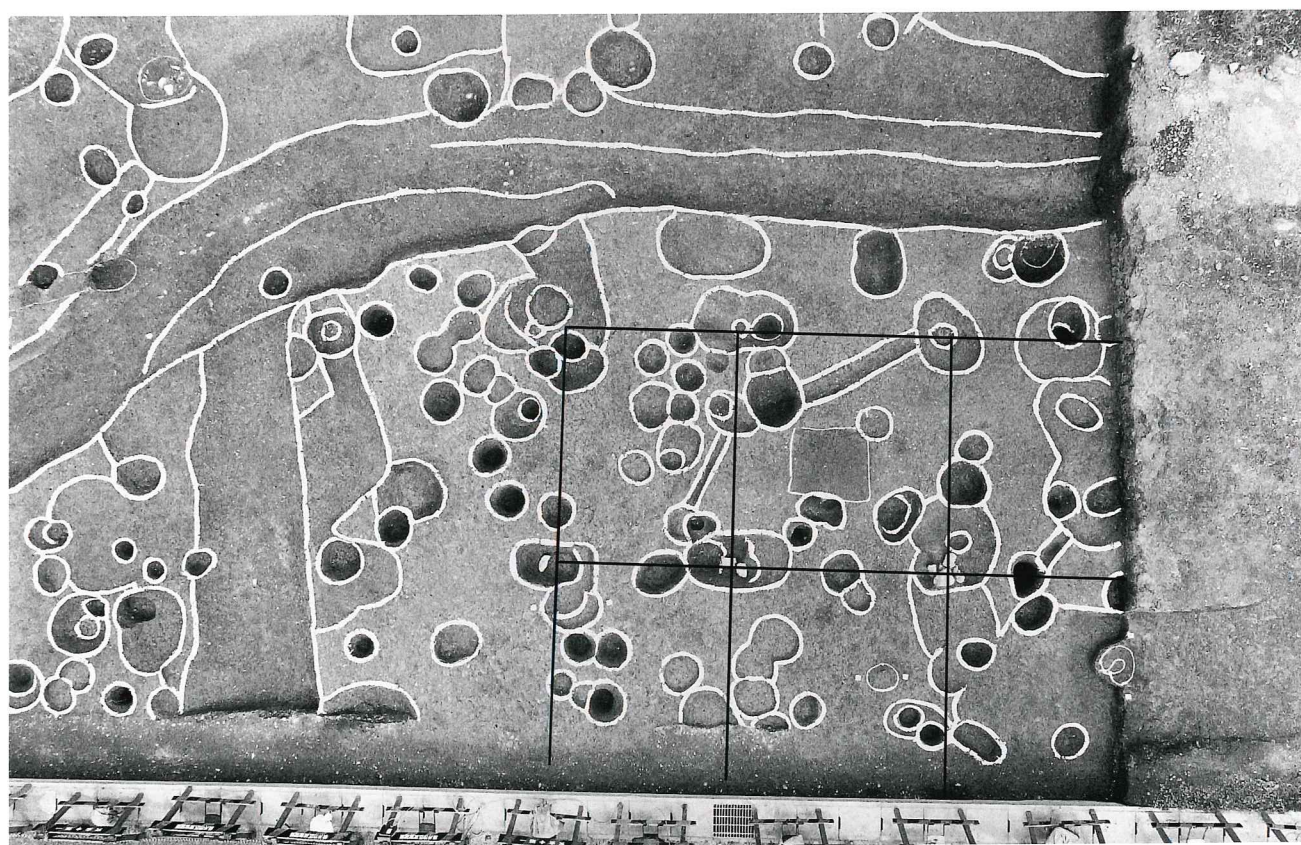
(1) S B 5 炉跡 1 (地床炉で中央が良く焼けている。北より)



(2) S B 5 炉跡 2 (地床炉で中央が窪んでいる。南より)



(1) SH1と区画溝（弥生後期の総柱の掘立柱建物である。西より）



(2) SH1

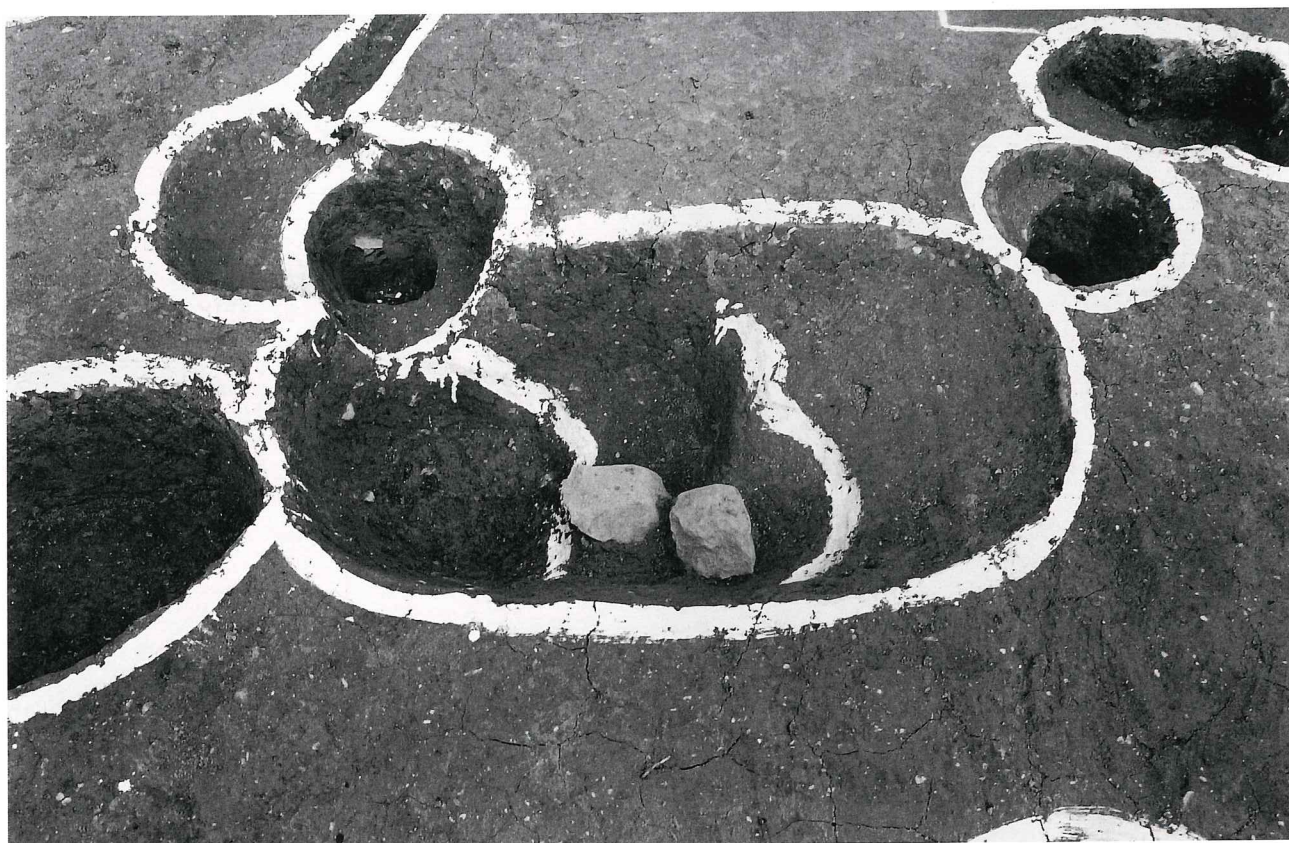
（掘立柱建物の周囲には区画溝に囲まれている。特殊な用途の建物であろうか。上が北である。真上より）



(1) SH1と区画溝（北西より）



(2) SH1-P6土層（土層からは直径20cm程度の柱痕跡が見られる。南より）



(1) SH1-P6 (根巻石が見られる。南より)



(2) SH1-P7 (根巻石が見られる。底より直径20cm程度の柱痕跡も見られた。南より)

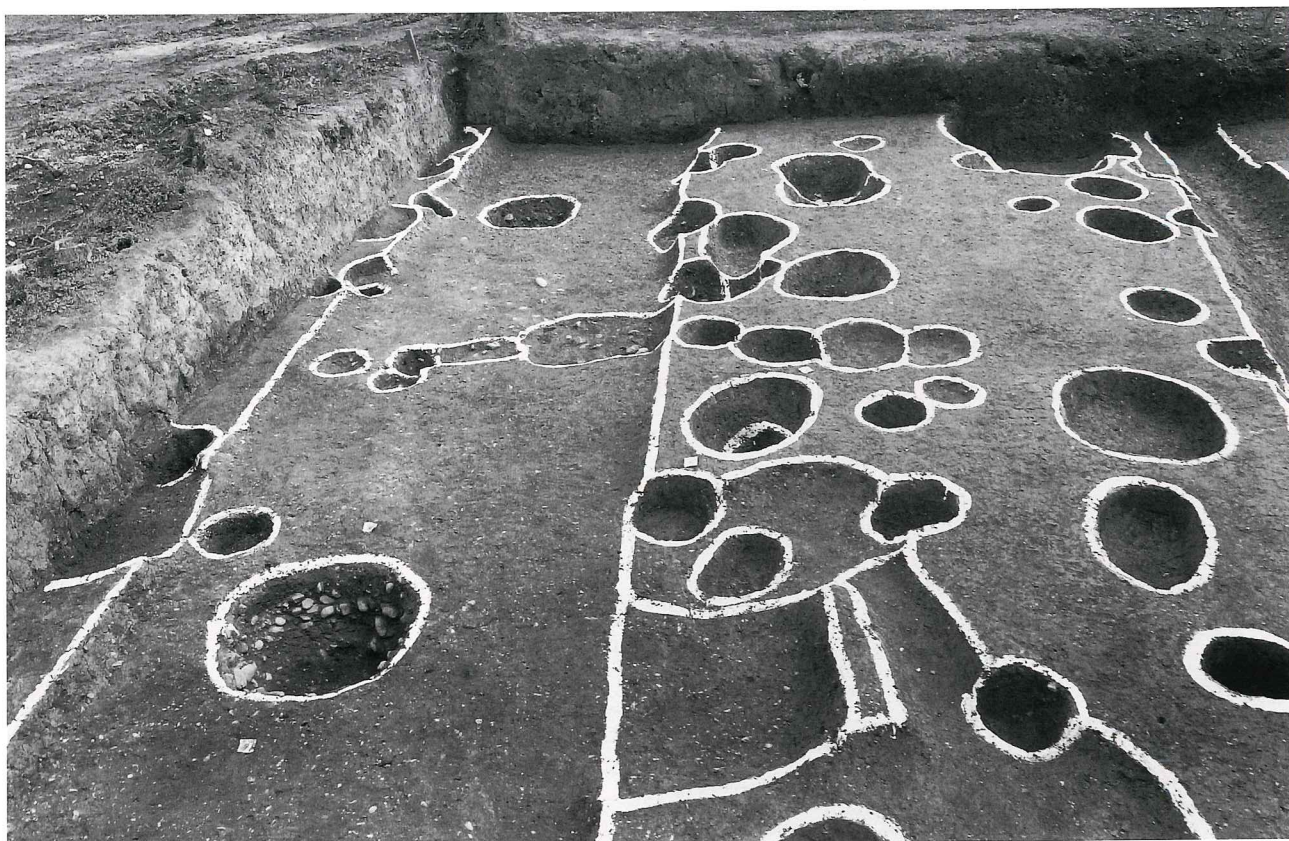


(1) SH1-P9土層（土層からは柱痕跡は確認できなかった。南より）

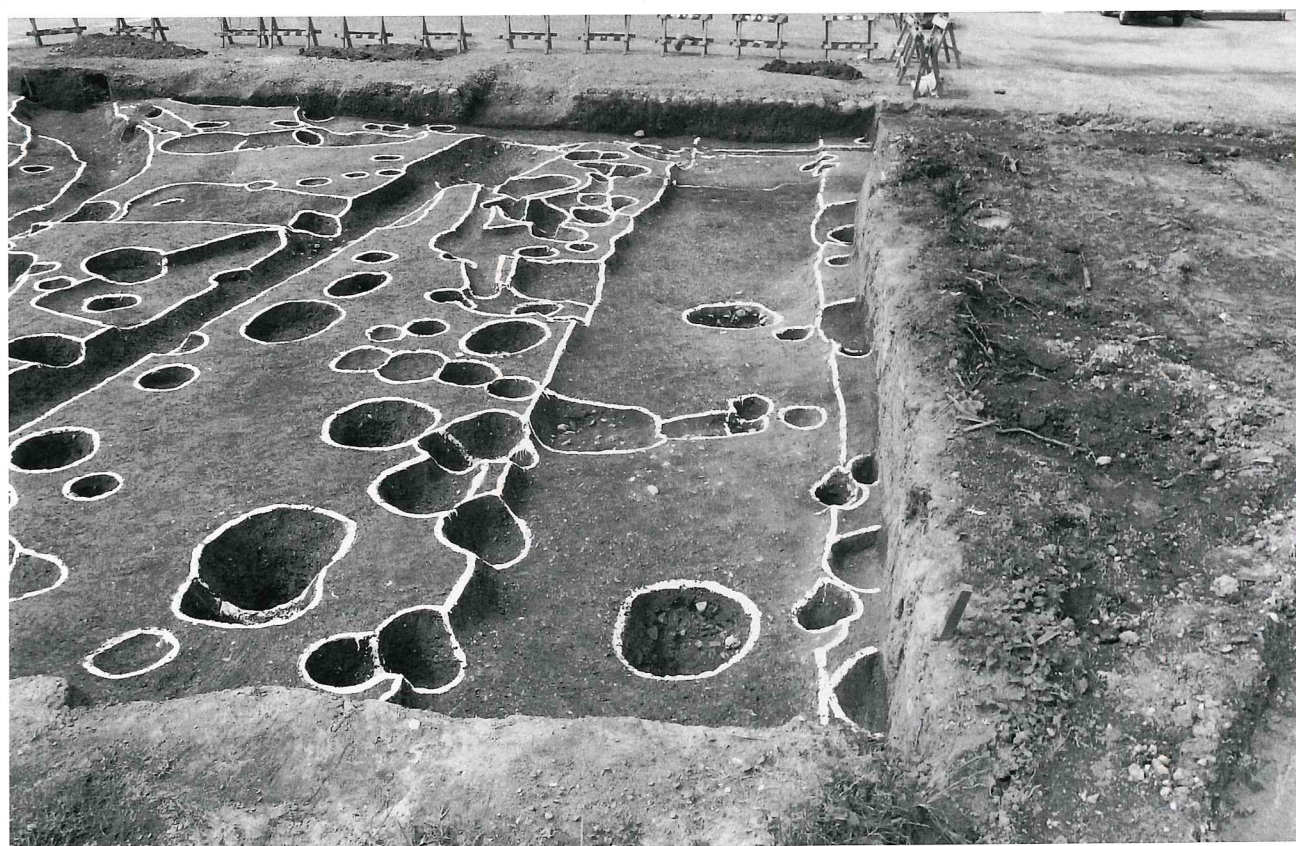


(2) SH1西側区画溝土層

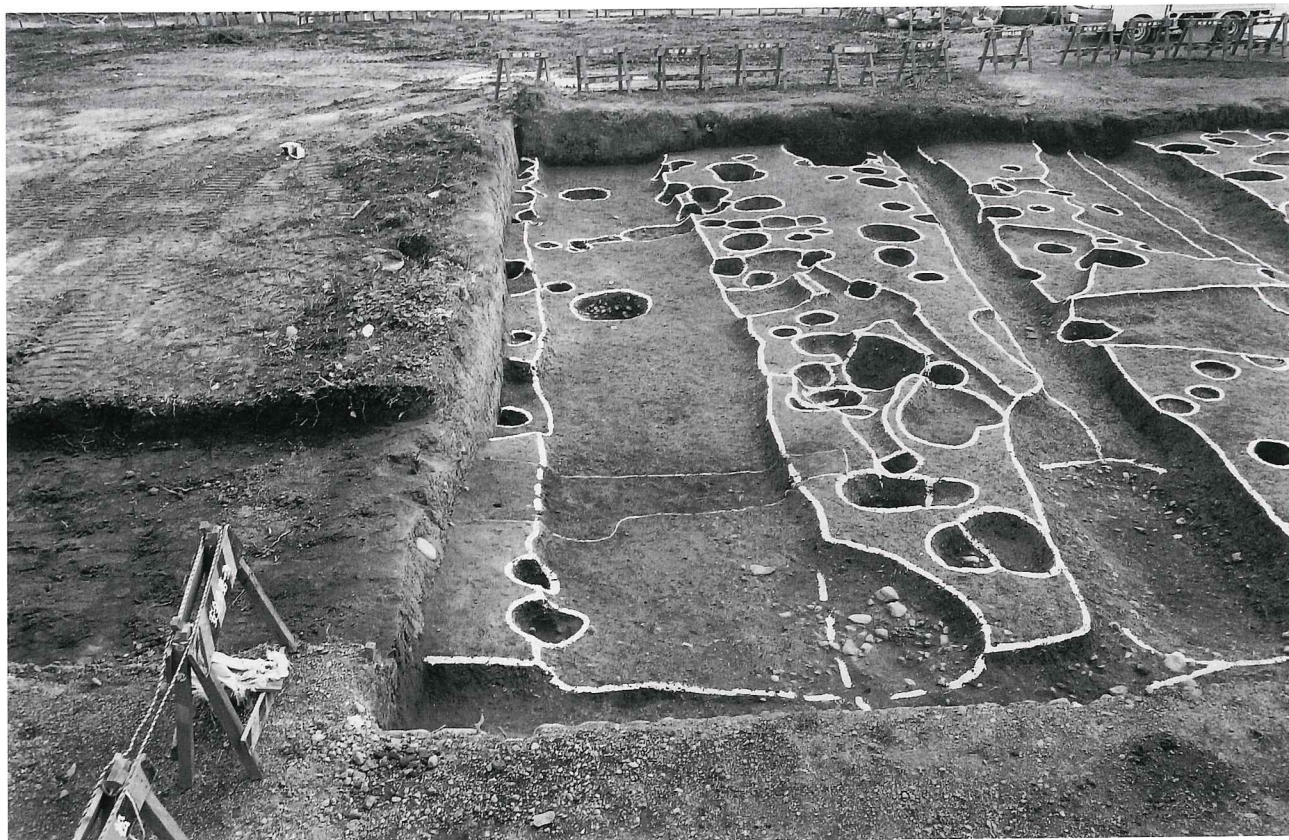
（弥生後期の土器片が出土した。土層からは自然堆積をしていることが分った。西側に段がある。北より）



(1) 調査区北東柱穴群（大きめの柱穴が集中する。古墳後期の掘立柱建物の柱穴か。西より）



(2) S D16（奈良時代の正倉院北辺の区画溝である。東より）



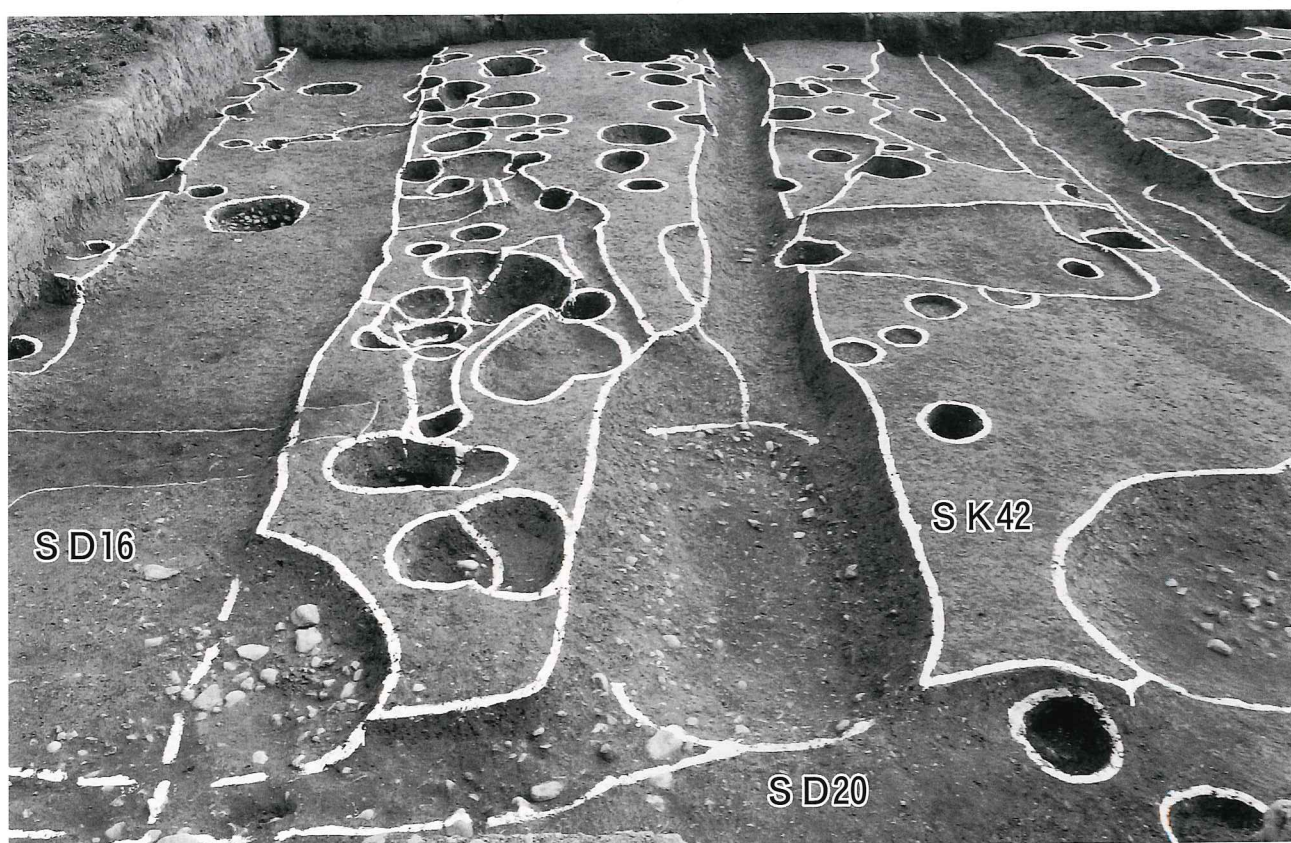
(1) S D16

(幅3 m、底はたいらで立ち上がりは急である。奈良時代の遺物はほとんど出土しない。西より)



(2) S D16調査区東端土層

(土層からは自然堆積で分層できない。包含層中から掘り込まれている。西より)



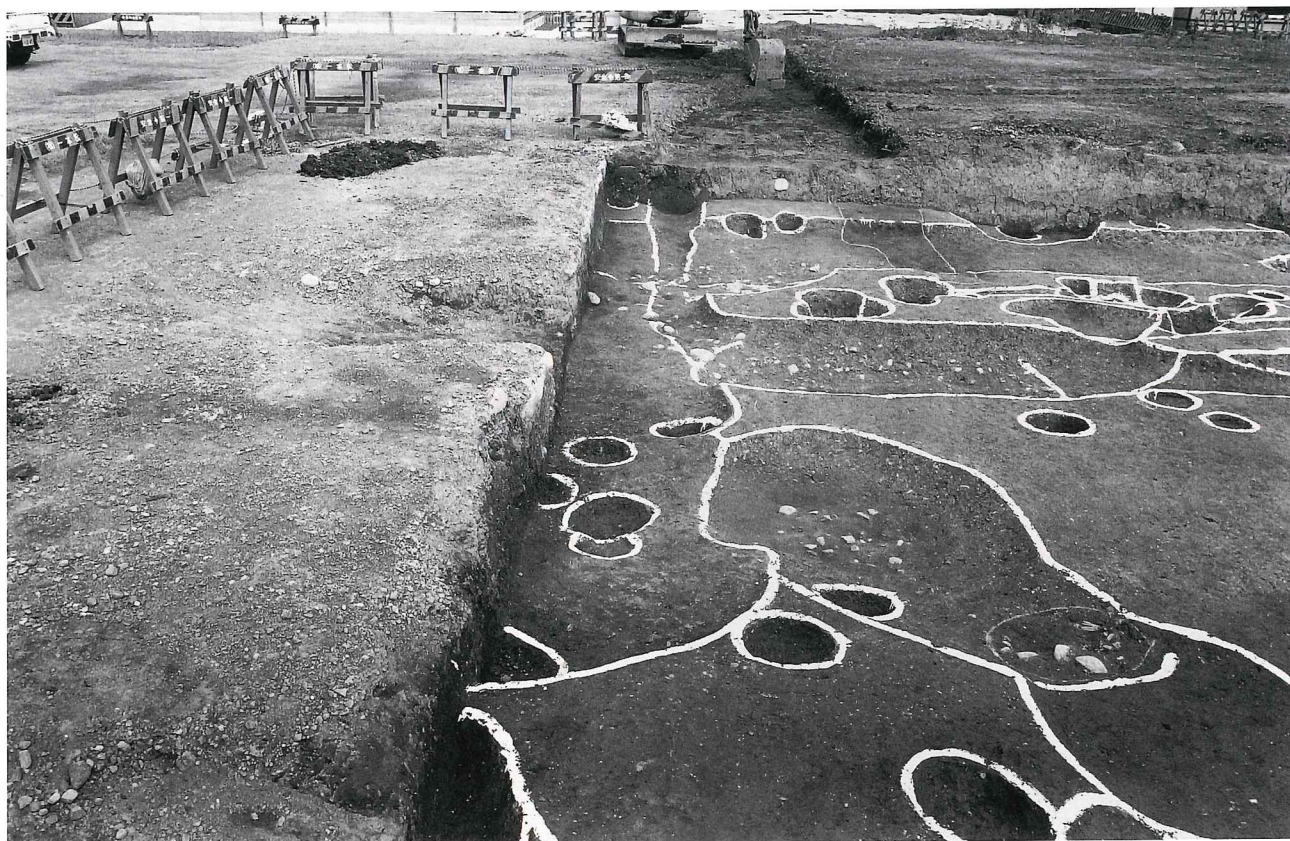
(1) S D20

(江戸末期～明治時代の畑地の区画溝である。遺物はほとんど出土しない。西より)



(2) S E20

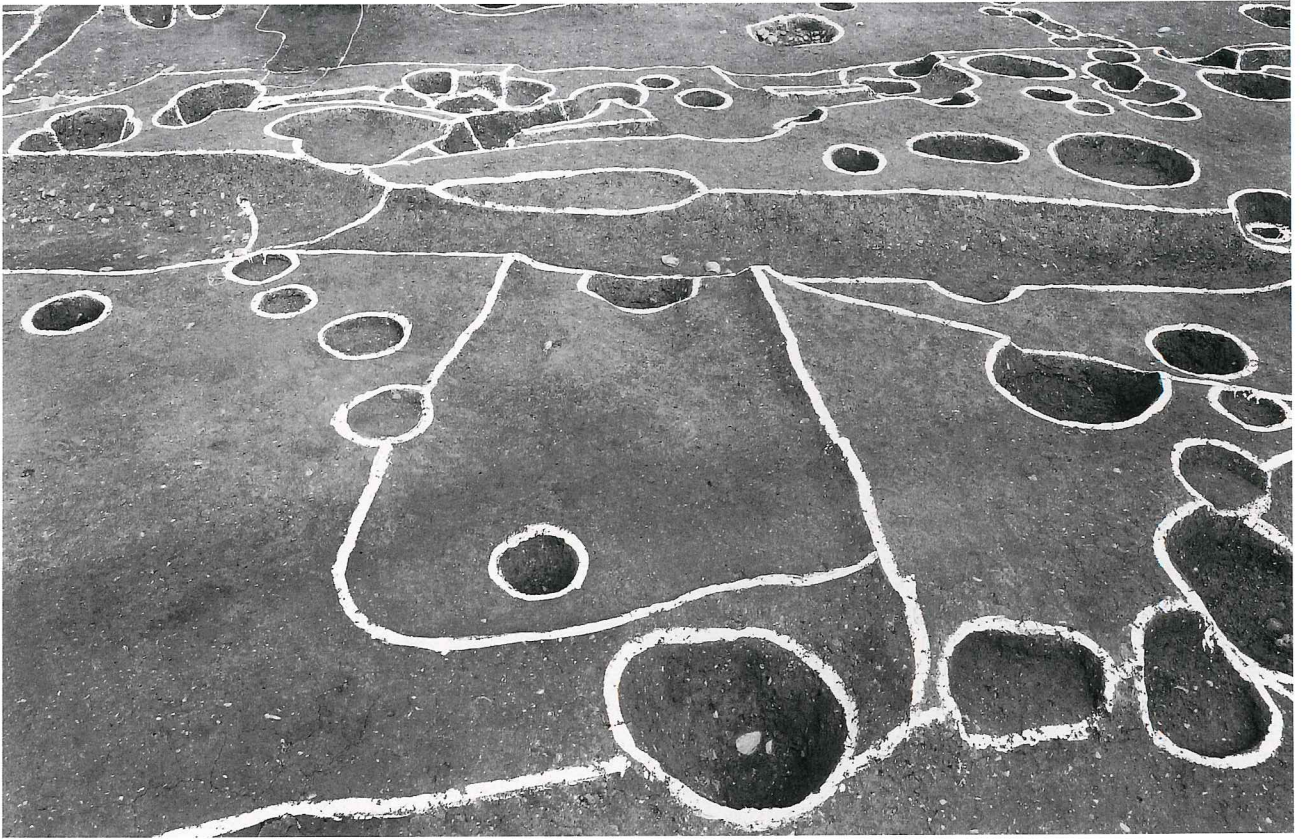
(近世末期～明治時代の溜水用井戸である。雨水が湧水となる程度で常には湧水しない。西より)



(1) S K36 (弥生後期の縦長の大型土坑である。土器片が大量に出土した。南より)



(2) S K37 (弥生後期の土坑である。遺物は少なく廃棄土坑か。南東より)



(1) S K39 (竪穴状遺構で床面に焼土が確認された。南より)



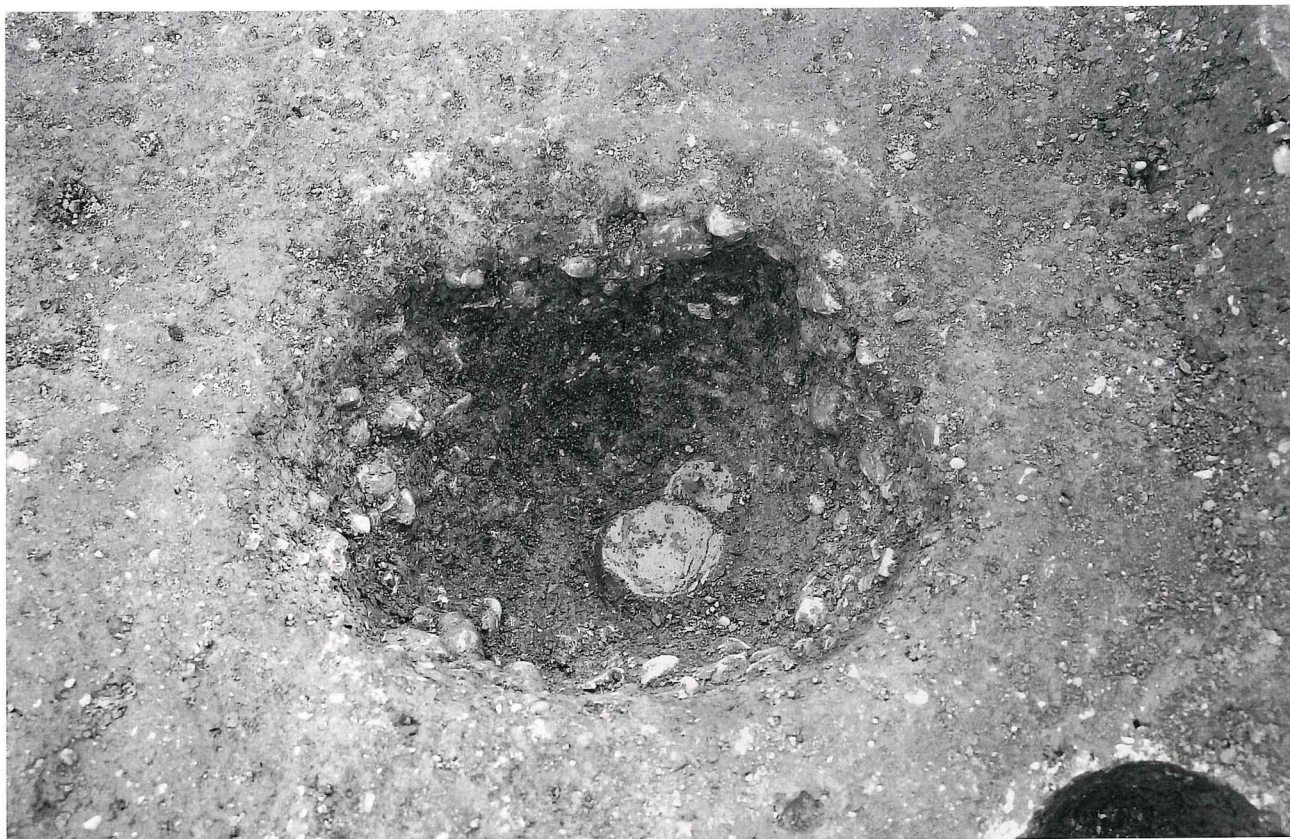
(2) S K42 (S D20と重複する江戸末期の溜水用の方形土坑である。東より)



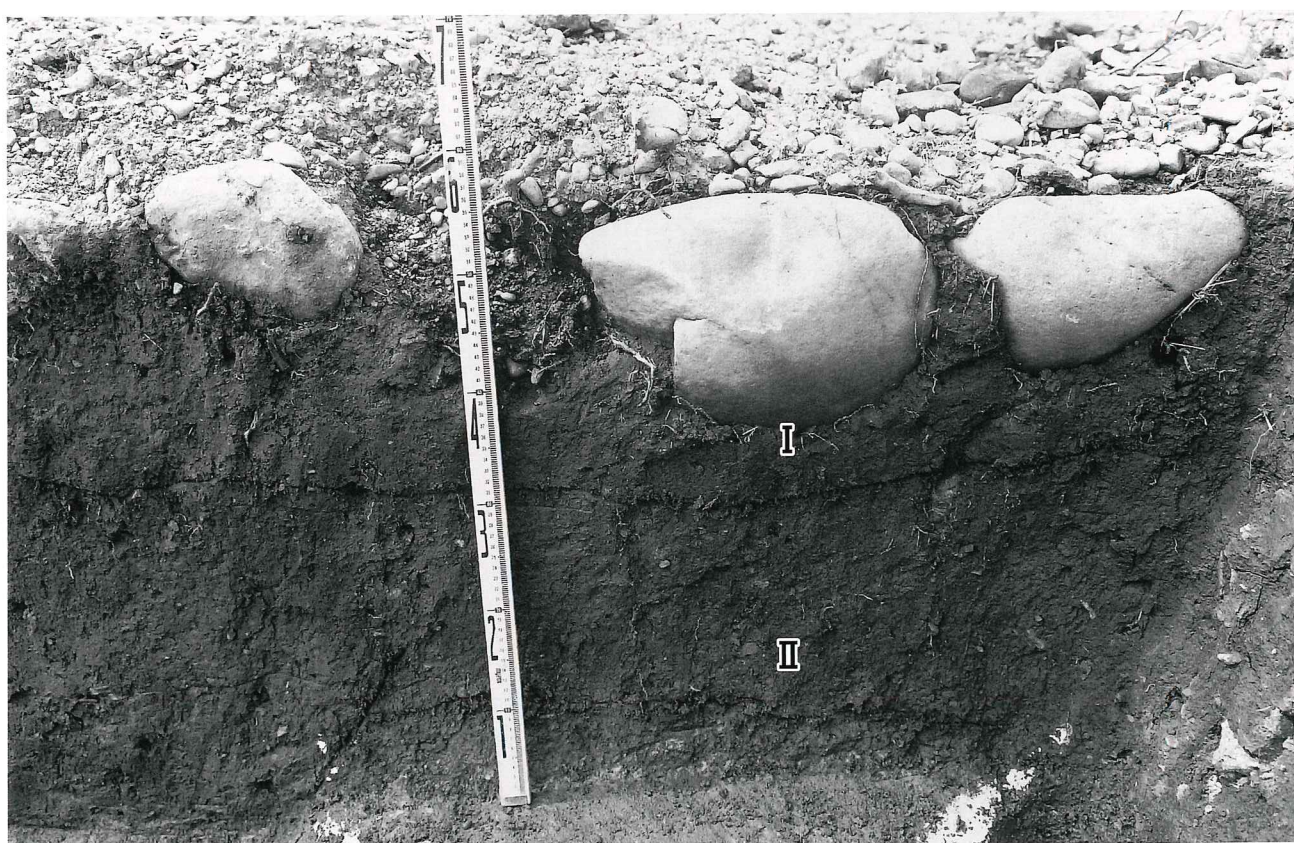
(1) S P 25 (弥生後期の壺の底部が出土した。貯蔵穴か。東より)



(2) S P 36 (扁平片刃石斧が出土した。東より)



(1) S P50 (古墳後期の高坏の坏部が出土した。竪穴住居の貯蔵穴か。東より)



(2) 調査区西壁土層

(厚さ20cmの包含層が存在したが、調査区の北側で厚く南側では薄かった。土器の包含量は少ない。東より)



(1) 重機による表土掘削作業風景（一部包含層が存在したため、表土を掘削した。）



(2) 人力による作業風景（S D16の調査風景である。）



(1) 第56次発掘調査区空中写真遠景
(調査区より奥が慈眼寺で、さらに原野谷川を望むことができる。南より)



(2) 第56次発掘調査区空中写真全景
(弥生後期の方形周溝墓や奈良時代の掘立柱建物と区画溝が重複して発見された。南より)



(1) 第56次発掘調査区空中写真全景

(中央に奈良時代の区画溝、弥生後期の重列配置となる方形周溝墓が発見された。上が西である。真上より)



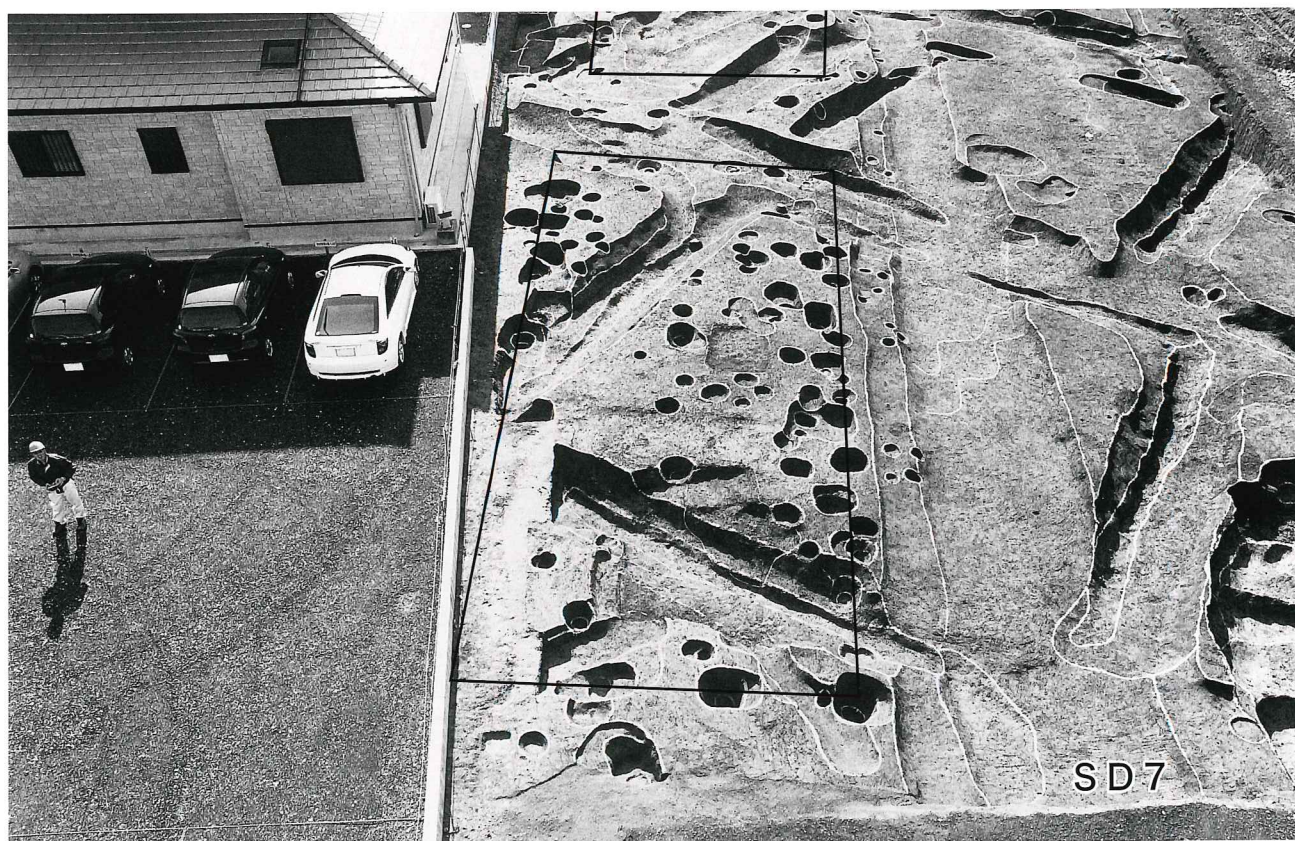
(2) 第56次発掘調査区全景

(遺構面の保存が良く多数の遺構が検出された。南より)

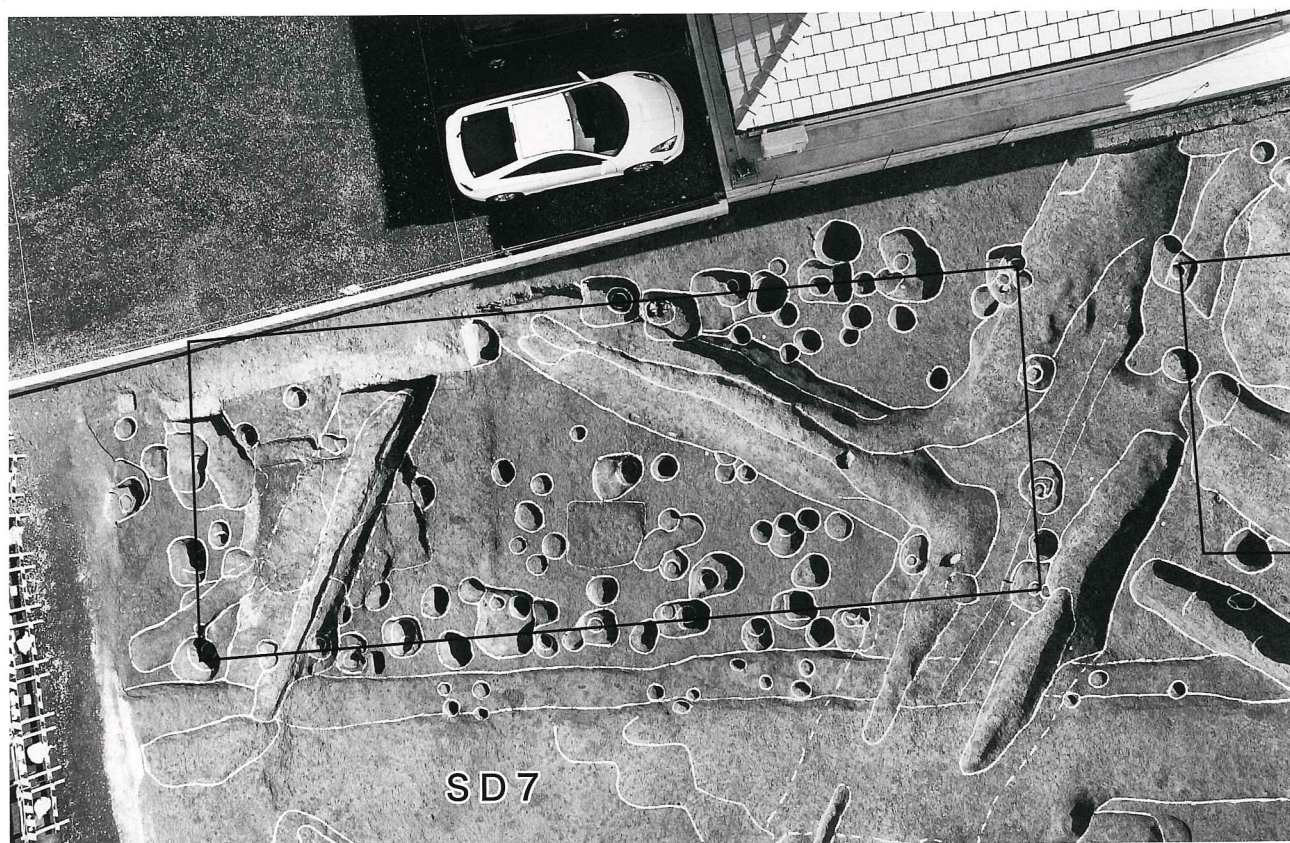


(1) SH4・5

(奈良時代の正倉院西辺の区画溝であるSD7と並行するように直列に配置されている長屋風の大型掘立柱建物である。北より)



(2) SH4 (梁行3間の土間式の建物で、2～3回の建替がある。北より)



(1) SH4

(奈良時代の正倉院関連の建物である。上が東である。真上より)



(2) SH4-P3土層

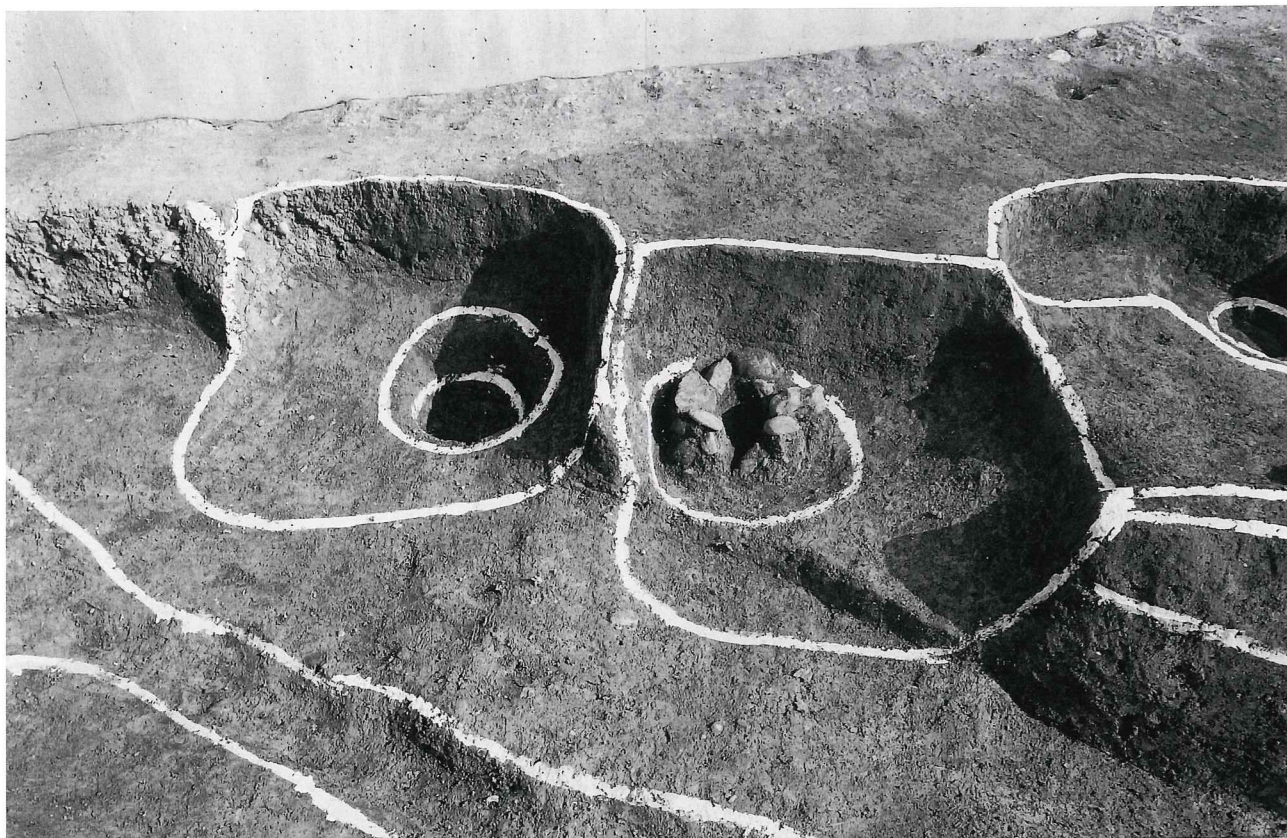
(土層からは柱痕跡は確認できなかった。版築状になっている。北より)



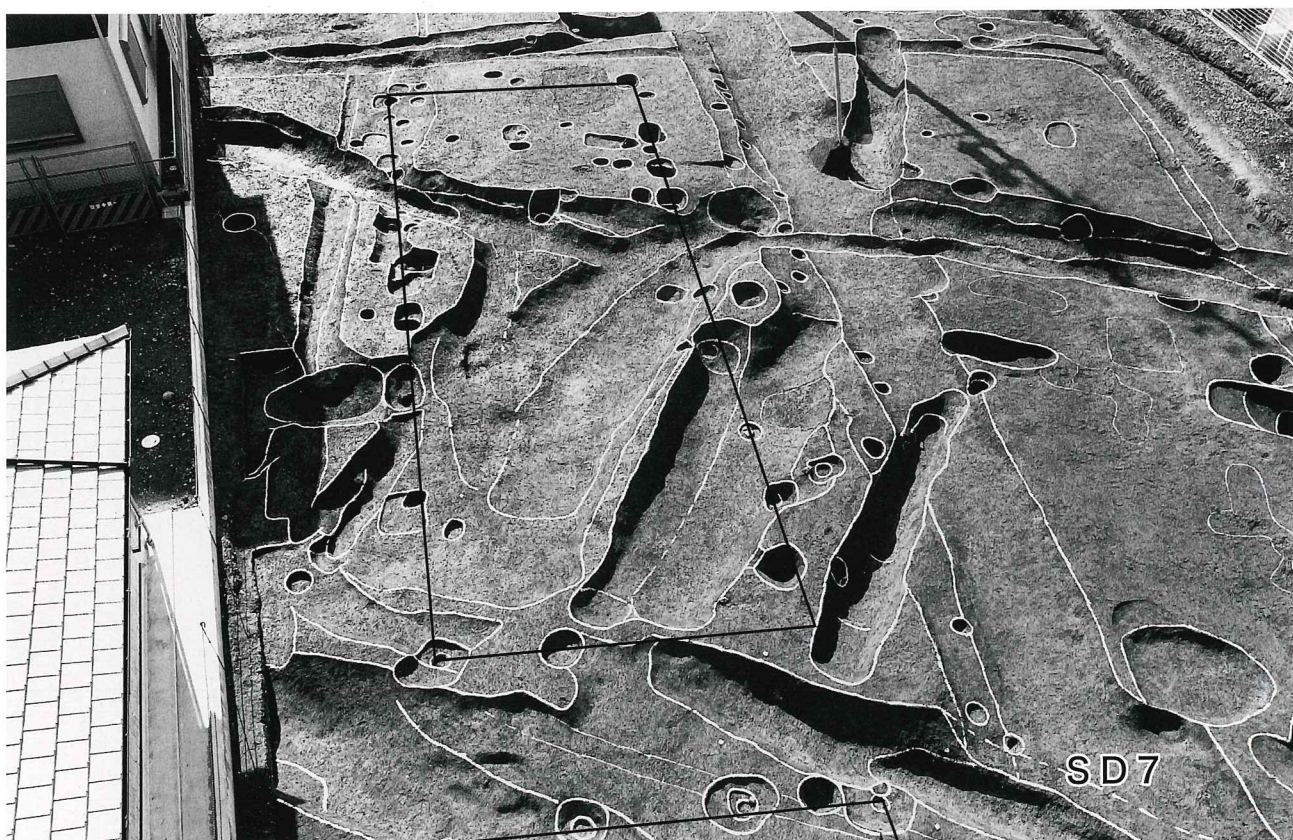
(1) SH4-P10土層（土層からは直径20cmの柱痕跡が確認できた。西より）



(2) SH4-P10（底にも直径20cmの柱痕跡が確認できた。東より）



(1) SH4-P14・15
(何れも底に直径20cmの柱痕跡が確認できた。P15では根巻石も確認できた。西より)



(2) SH5 (梁行3間?の土間式の建物で、1回程度?の建替がある。北より)



(1) SH5

(奈良時代の正倉院関連の建物である。上が東である。真上より)



(2) SH5-P13土層 (土層からは直径20cmの柱痕跡が確認できた。東より)



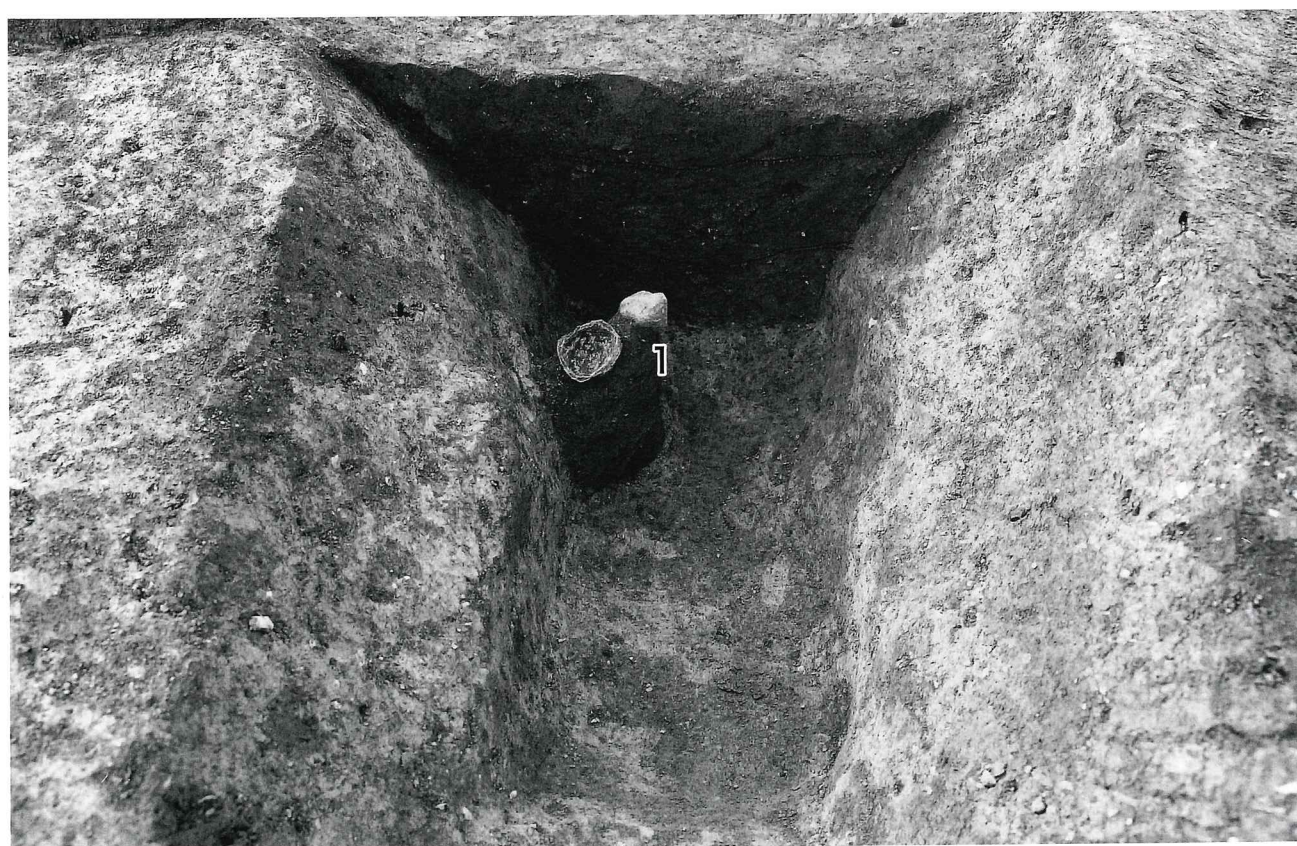
(1) SH5-P13 (底に柱痕跡は確認できなかった。東より)



(2) SZ1 (北西コーナーは溝幅は減ずるが陸橋とはならない。北西より)



(1) S Z 1 北溝土層
(土層からは再掘削が認められた。方台部側の1段浅い部分に盛土の流込と思われる土層が確認できた。西より)



(2) S Z 1 北溝西端
(掘り込みが深くなる箇所があり、小型土器片と小礫が上層より出土した。溝内土坑であろうか。この部分の土層は水平堆積を示していた。東より)



(1) S Z 1 東溝内土器棺

(溝がある程度埋まってから壺形棺を直立状態で埋葬している。胴部上半は削平のため失われていた。西より)

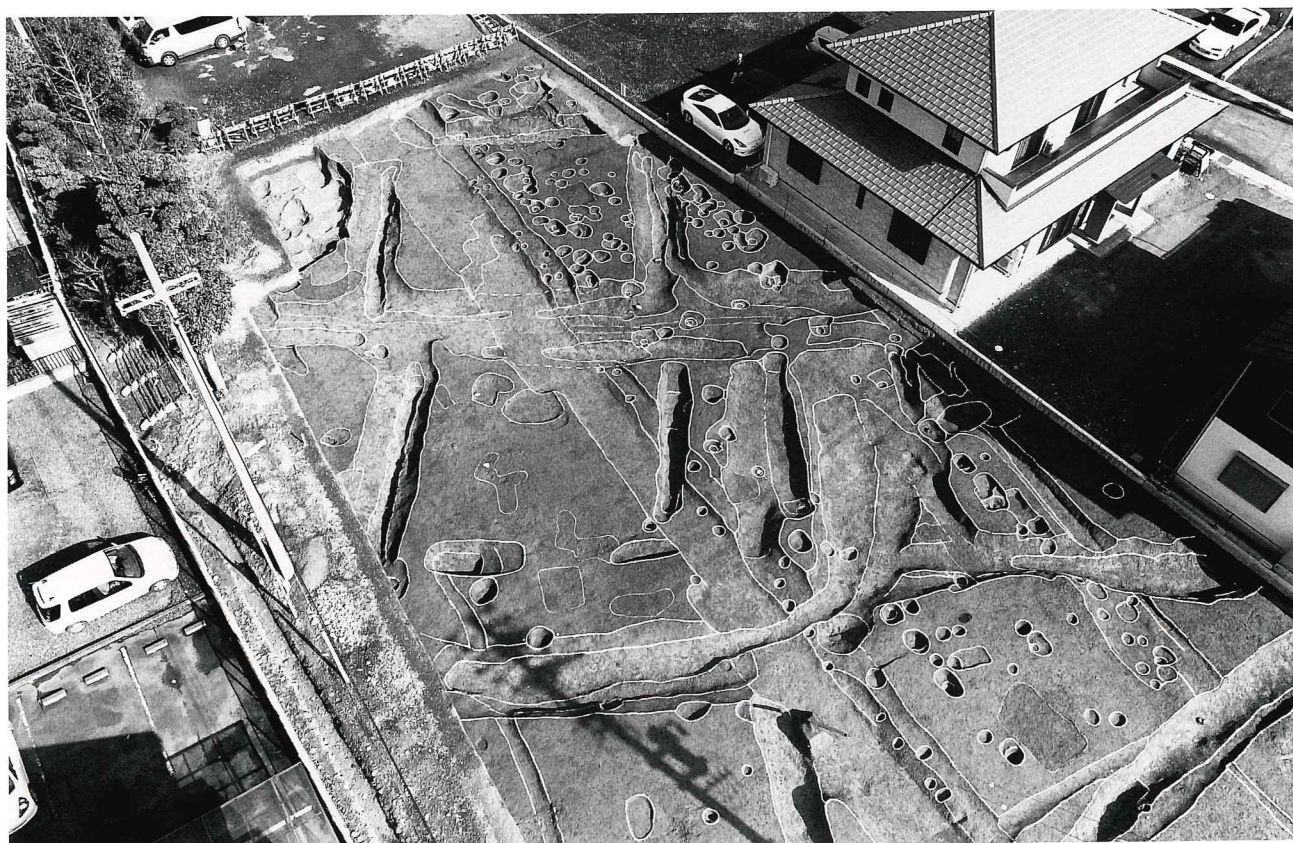


(2) S Z 1 西溝土層

(土層からは自然堆積を示しており、方台部からの盛土の流込は確認できなかった。
上層に見られる黄褐色土はS D 7の2回目拡張時の埋土である。北より)



(1) S Z 1 西溝出土土器
(底近くから壺や高坏が出土したが、完形品ではなかった。北より)



(2) 方形周溝墓群
(弥生後期後半が主体の時期で、互いの溝を接するように重列状態で造墓されている。南西より)



(1) 方形周溝墓群

(東西方向に列が通るため単位群となる。S Z 14とS Z 18の間には墓道が確認できた。S Z 10・18は中期の方形周溝墓S Z 17・19を壊して造られている可能性がある。上が南東である。真上より)



(2) S Z 10・17

(S Z 10は弥生後期の方形周溝墓であるが、弥中期のS Z 17西溝はS Z 18方台部内となる。北西より)



(1) S Z10南溝土層
(土層からは自然堆積を示しており、方台部からの盛土の流込は見られなかった。東より)



(2) S Z10南溝出土土器
(底近くからまとめて土器が出土している。北西より)



(1) S Z10南溝出土土器
(No 1～6の土器で完形率の高い壺や小型壺が出土している。北より)



(2) S Z10南溝出土土器 (No 7・8の土器で完形率の低い壺が出土している。北より)



(1) S Z10南溝出土土器
(No 9～10の土器で完形率の高い壺や小型壺、破片でNo 13の高坏が出土している。北より)



(2) S Z17西溝土層
(黒色土を主体とする土層は、弥生中期の方形周溝墓の特徴となる。この溝はS Z18の方台部内となるため、弥生後期のS Z10・18の築造のため破壊されたと思われる。北より)



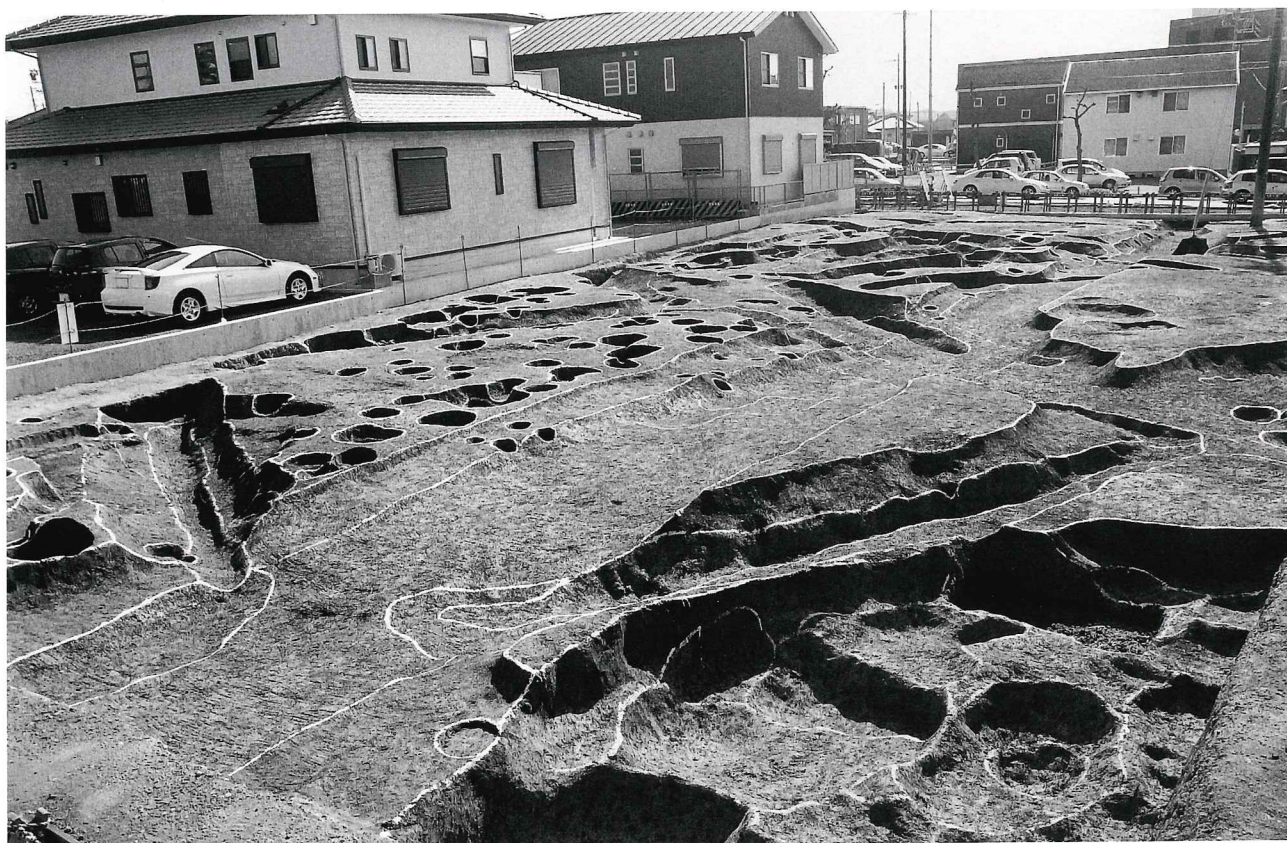
(1) S Z13

(弥生後期の方形周溝墓の南西コーナー部分で、溝幅は減ずるが連結している特徴を示す。西より)



(2) S Z14

(弥生後期の方形周溝墓で、溝幅は減ずるが4箇所ともコーナーが連結している特徴を示す。南西より)



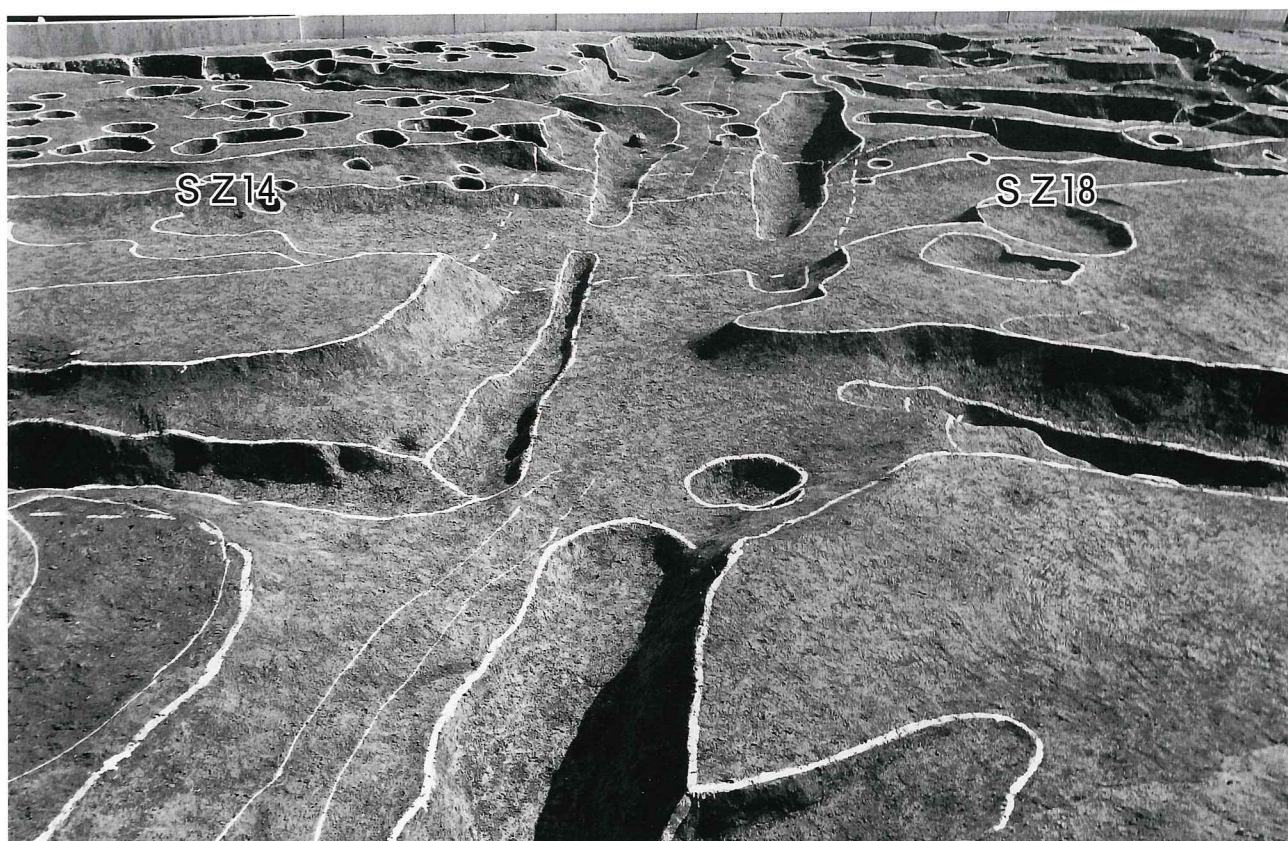
(1) S Z14

(S Z13西溝とS Z14東溝が共有されている。各溝の中央を深くする特徴を示しており、再掘削と思われる。北西より)



(2) S Z14南コーナー

(溝幅を減じやや浅くなるが、コーナーは連結させている。
溝の中層から2箇所自然石が出土した。北東より)



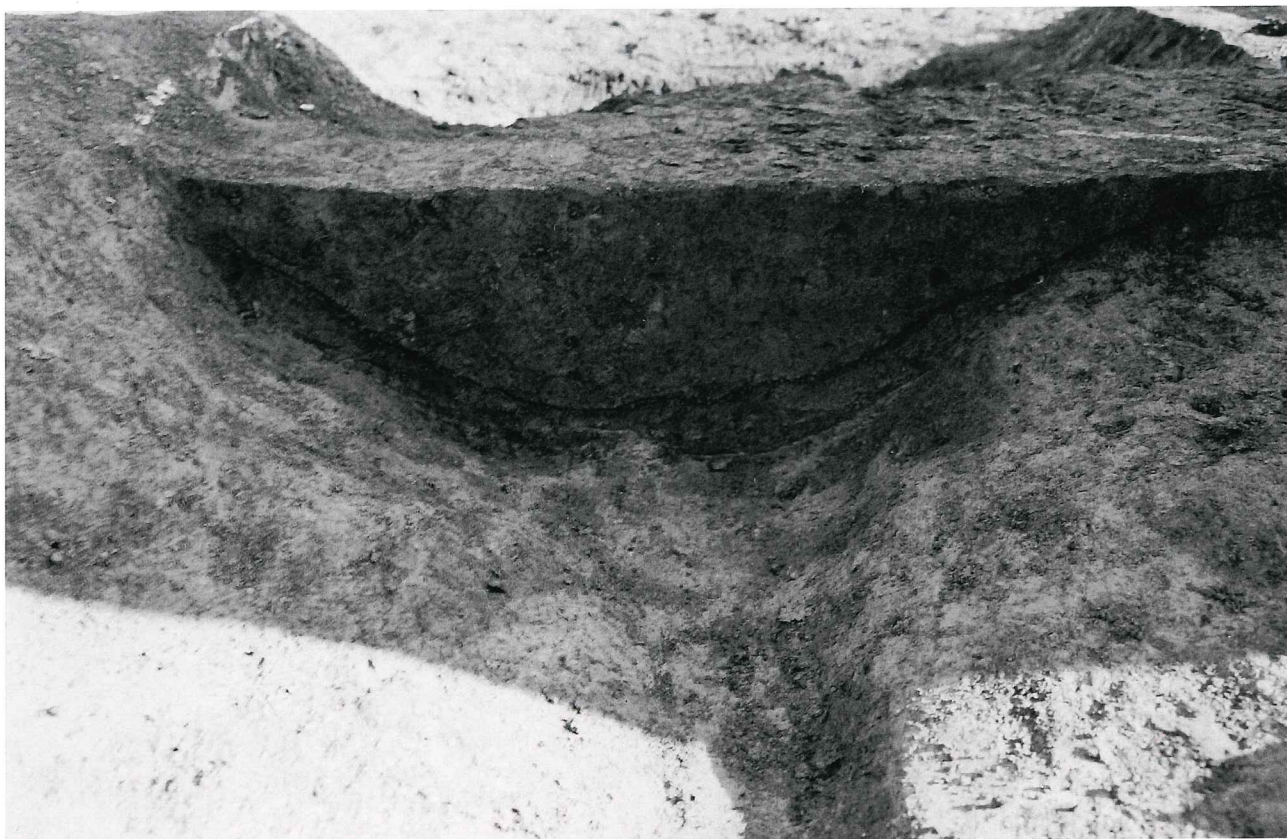
(1) S Z14・18間墓道

(S Z14南溝とS Z18北溝が連結した幅広の溝内中央に、砂利敷の幅20cm程度の墓道が確認できた。西より)



(2) S Z14・18間墓道

(溝内中央の高い部分に砂利敷の墓道が確認できた。東より)



(1) S Z14北溝土層
(土層からは自然堆積を示し、方台部からの盛土の流入は認められなかった。西より)



(2) S Z14東溝土層
(土層からは自然堆積を示すが、再掘削の掘込が確認できた。
方台部からの盛土の流入は認められなかった。北より)



(1) S Z14東溝出土土器
 (再掘削された小溝部分の底近くからまとまって土器が出土している。
 完形率の高い壺や破片の壺などが出土している。北より)



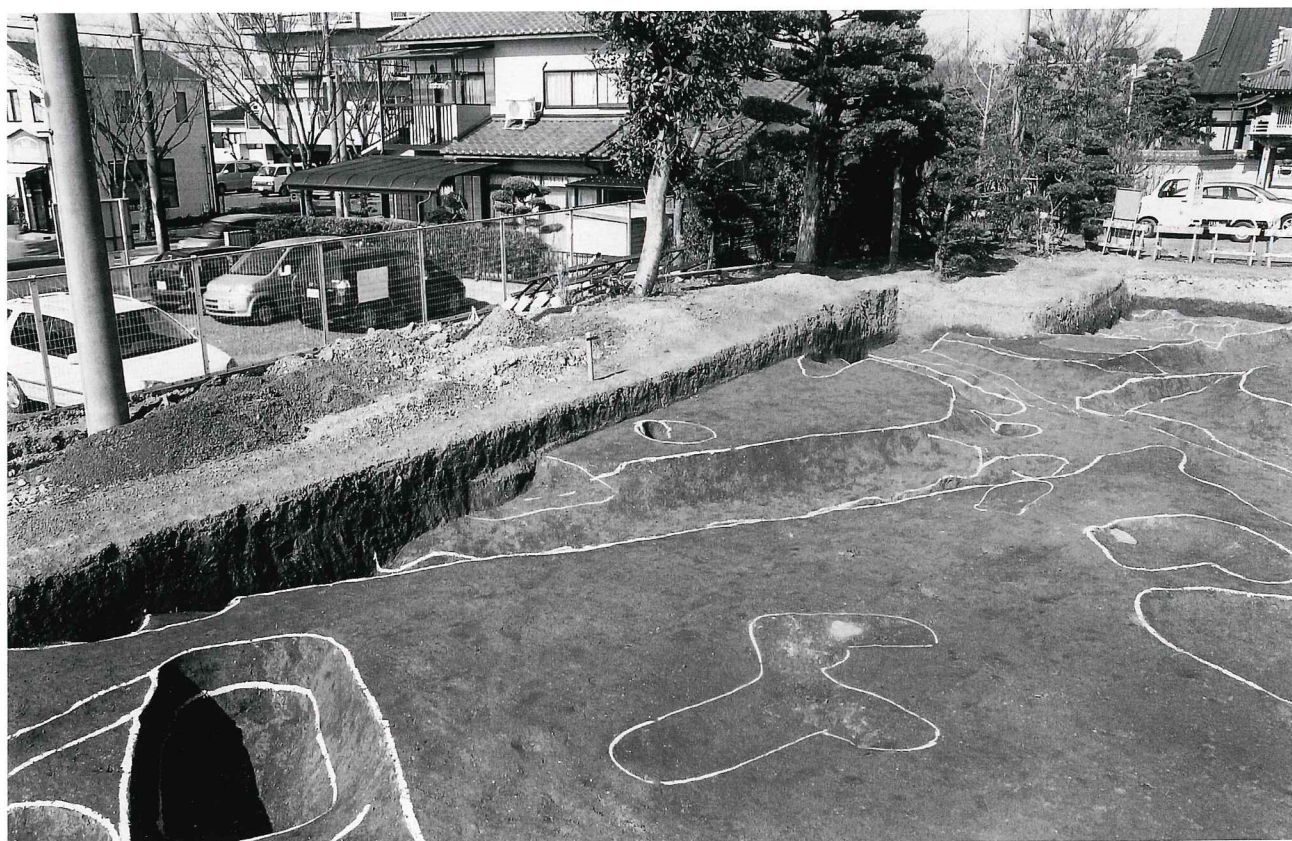
(2) S Z14西溝出土土器
 (No 1・2は、完形率の高い壺や小型壺である。北より)



(1) S Z14西溝土層・出土土器
 (土層からは自然堆積を示すが、再掘削された溝の状況が確認できた。No 3・4の土器は完形率の高い壺や小型壺で再掘削された溝中より出土している。北より)



(2) S Z15
 (隅に陸橋をもつ小型の方形周溝墓で、弥生中期に属すると思われる。東より)



(1) S Z16

(弥生後期の方形周溝墓である。北東コーナー部分で溝は連結している。南東より)



(2) S Z14南溝・S Z16北溝土層

(S Z16のほうが新しく掘削されたことが分かる。ただしこれはS Z16の再掘削の切合関係である。北西より)



(1) S Z16東溝土層

(土層からは自然堆積で盛土の流入は認められないが、再掘削された状況が確認できた。再掘削された溝底から土器が出土している。南より)



(2) S Z16東溝出土土器 (溝底から大量に土器が出土した。南より)



(1) S Z 16東溝出土土器

(No 1～5は壺や小型壺で、完形率の高いものと破片になったものが一緒に出土した。東より)



(2) S Z 16東溝出土土器

(No 6～11は壺や高坏で、完形率の高いものと破片になったものが一緒に出土した。東より)



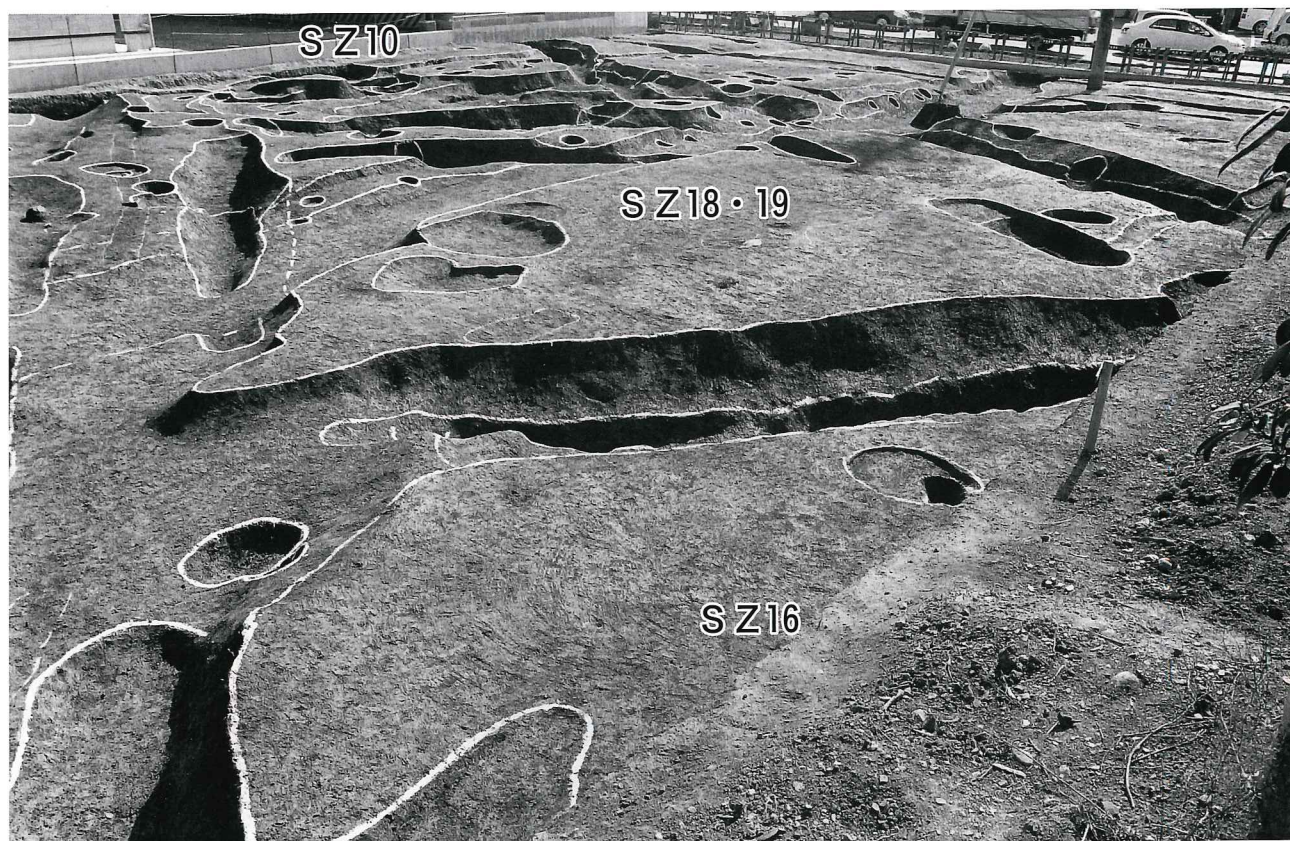
(1) S Z 16東溝出土土器

(No 14・16・17は壺や高坏、小型壺で、壺・小型壺は完形率が高いが高坏は坏部が離れて出土した。東より)



(2) S Z 18・19

(S Z 18は弥生後期の方形周溝墓で、弥生中期のS Z 19を壊して築造された可能性がある。南西より)



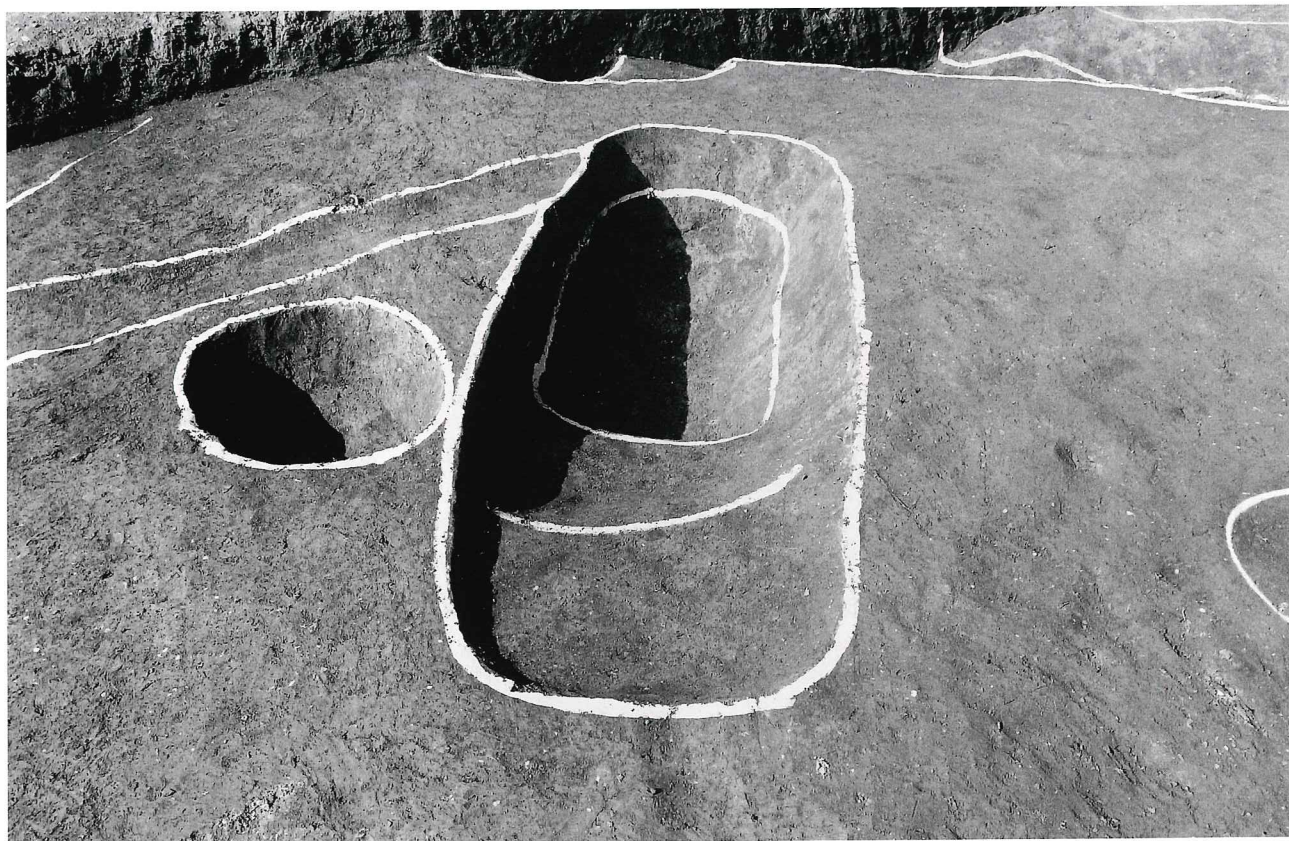
(1) S Z18・19

(S Z18の各コーナーは連結している。S Z19は東溝と南溝の部分的にしか残存していなかった。S Z18西溝とS Z16東溝は共有されている。北西より)



(2) S Z10・17~19

(弥生中・後期の方形周溝墓の溝が複雑に検出された。南西より)



(1) S Z19南溝
(溝内土坑が検出された。木棺の痕跡は認められなかった。東より)



(2) S Z18北溝出土土器 (溝の底からまとめて出土した。南西より)



(1) S Z18北溝出土土器
(No 1～4は壺や高坏、小型壺で、小型壺は完形率が高いが
他は破片や高坏は坏部が離れて出土した。北東より)



(2) S Z18北溝出土土器
(No 5～8は壺や小型壺で、小型壺は完形率が高いが壺は破片で出土した。北東より)



(1) S Z18南溝土層
(土層からは自然堆積を示すが、再掘削された痕跡が確認できた。西より)



(2) S Z18南溝出土土器
(大量の土器が溝底、溝の片部分からは土器棺が確認された。東より)



(1) S Z18南溝出土土器

(No 1～4は壺や小型壺、高坏で、壺、小型壺は完形率が高いが、高坏は破片化している。南より)



(2) S Z18南溝出土鉄器 (錆化した鉄片が出土した。南より)



(1) S Z18南溝出土土器

(No 6～8は壺や小型壺、高坏で、小型壺は完形率が高いが、壺と高坏は破片化している。南より)



(2) S Z18南溝出土土器

(No 8～10は壺や小型壺、高坏で、壺と小型壺は完形率が高いが、口縁部は欠けている。南より)



(1) S Z18南溝出土土器
(No 11~14は壺で、完形率が高いものと破片化したものが出土している。南より)



(2) S Z18南溝土器棺1
(方台部側の溝肩部に、脚部を取り去った大型台付甕
2個を合口として、直立状態で埋葬されていた。東より)



(1) S Z18南溝土器棺2
(溝外側の肩部に、保存状況が悪かったが大型壺2個の口縁部を取り去り合口として、直立状態で埋葬されていた。東より)



(2) S Z18南溝土器棺3
(溝の底に、口縁部を取り去った大型壺を身とし小型壺を蓋として、直立状態で埋葬されていた。南より)



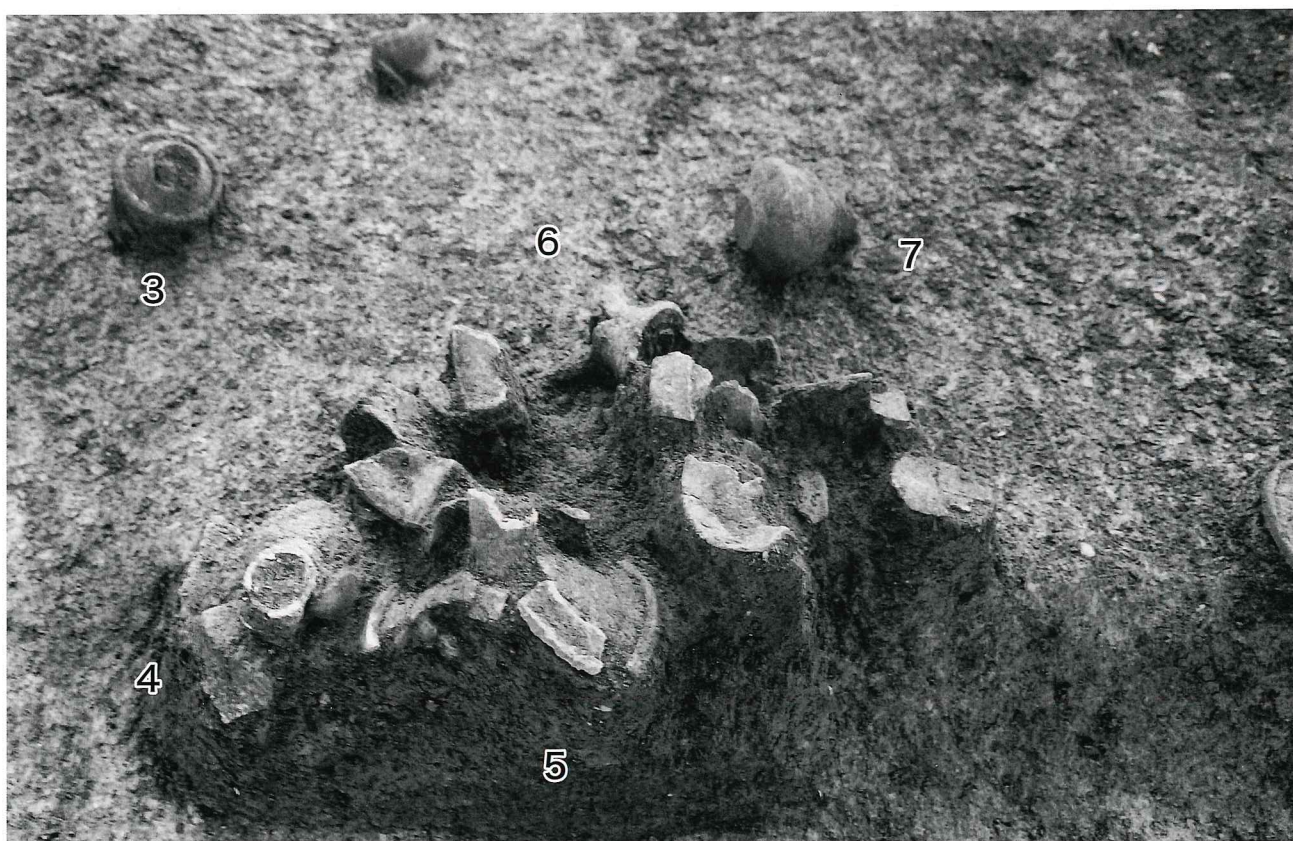
(1) S Z10西溝・S Z18東溝土層
(土層からは自然堆積を示し、切り合い関係は見られない。盛土の流入も見られない。土器はS Z18東溝に伴うものである。北より)



(2) S Z18東溝出土土器
(小型土器以外は破片として出土している。北より)



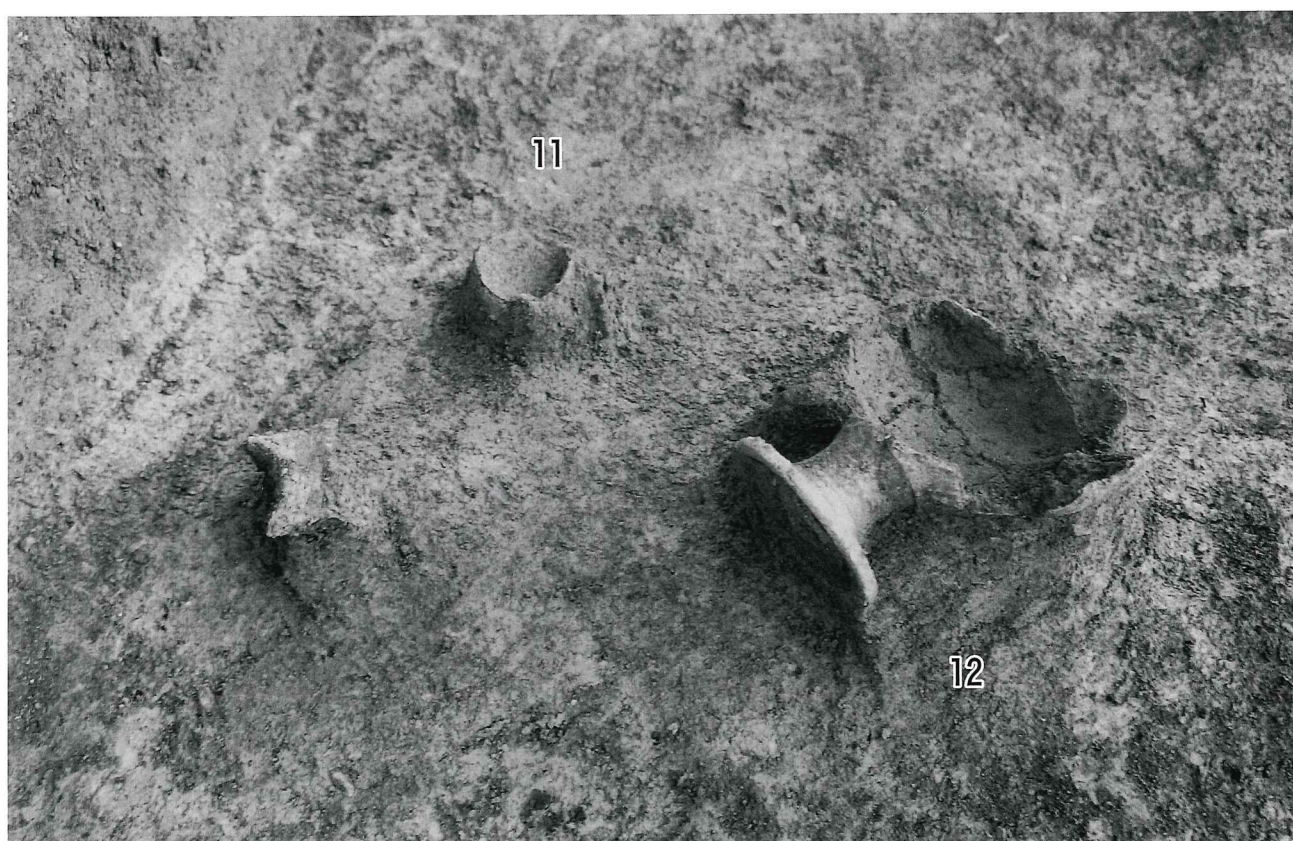
(1) S Z 18東溝出土土器
(No 1・2は壺の底部と小型壺で、小型壺は口縁部を欠くが完形率が高い。西より)



(2) S Z 18東溝出土土器
(No 3～7は壺や小型壺、高坏で、小型壺は口縁部を欠くが完形率が高い。壺と高坏は破片で出土している。西より)



(1) S Z18東溝出土土器
(No 8は高坏で、脚部と坏部が折れて出土している。西より)



(2) S Z18東溝出土土器
(No 11・12は壺と小型壺で、何れも破片で出土している。東より)



(1) SD7

(奈良時代の郡衙正倉院西辺を区画する溝である。南より)



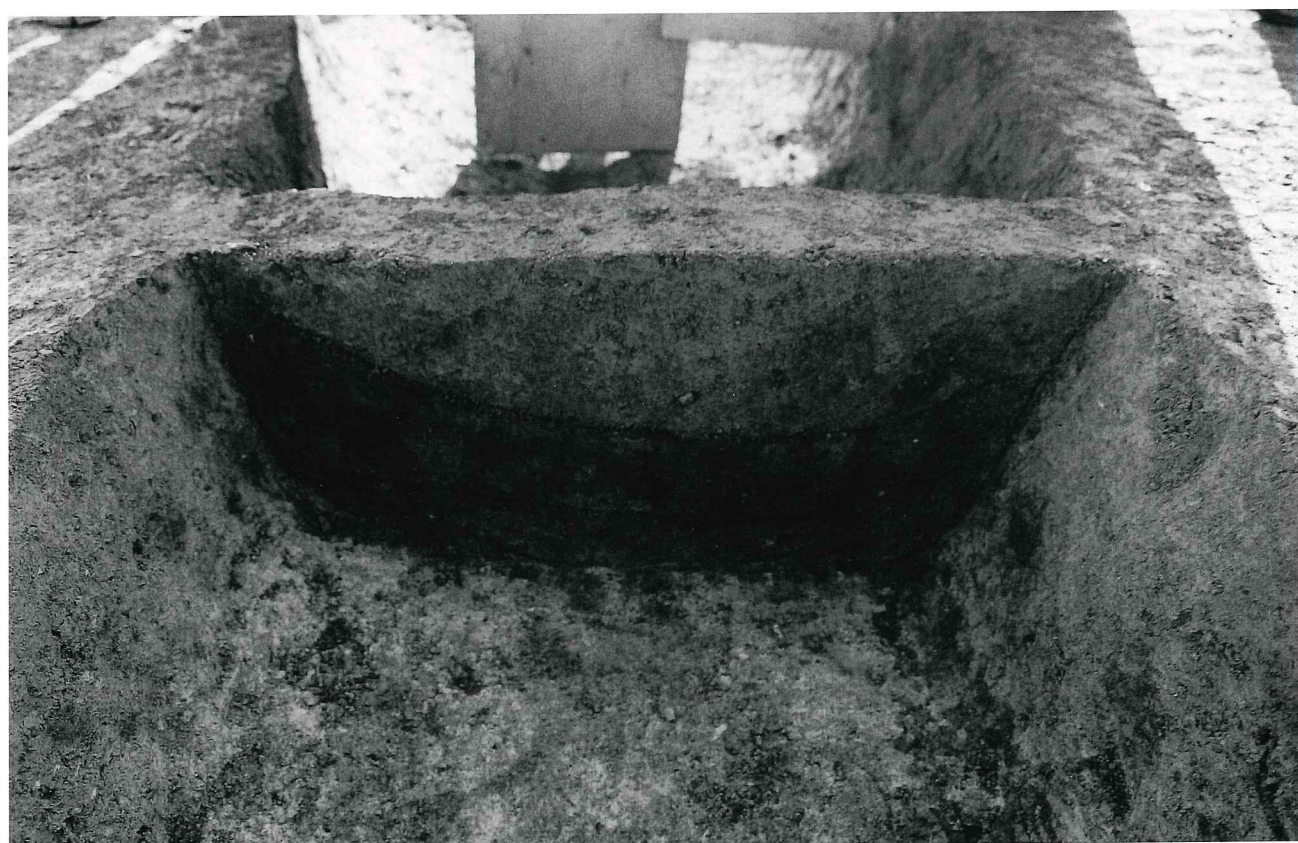
(2) SD7土層

(左側の正倉院側が一段浅く、土層からも切り合い関係が認められるために、
右側に向かって溝が拡張されたことが分かる。北より)



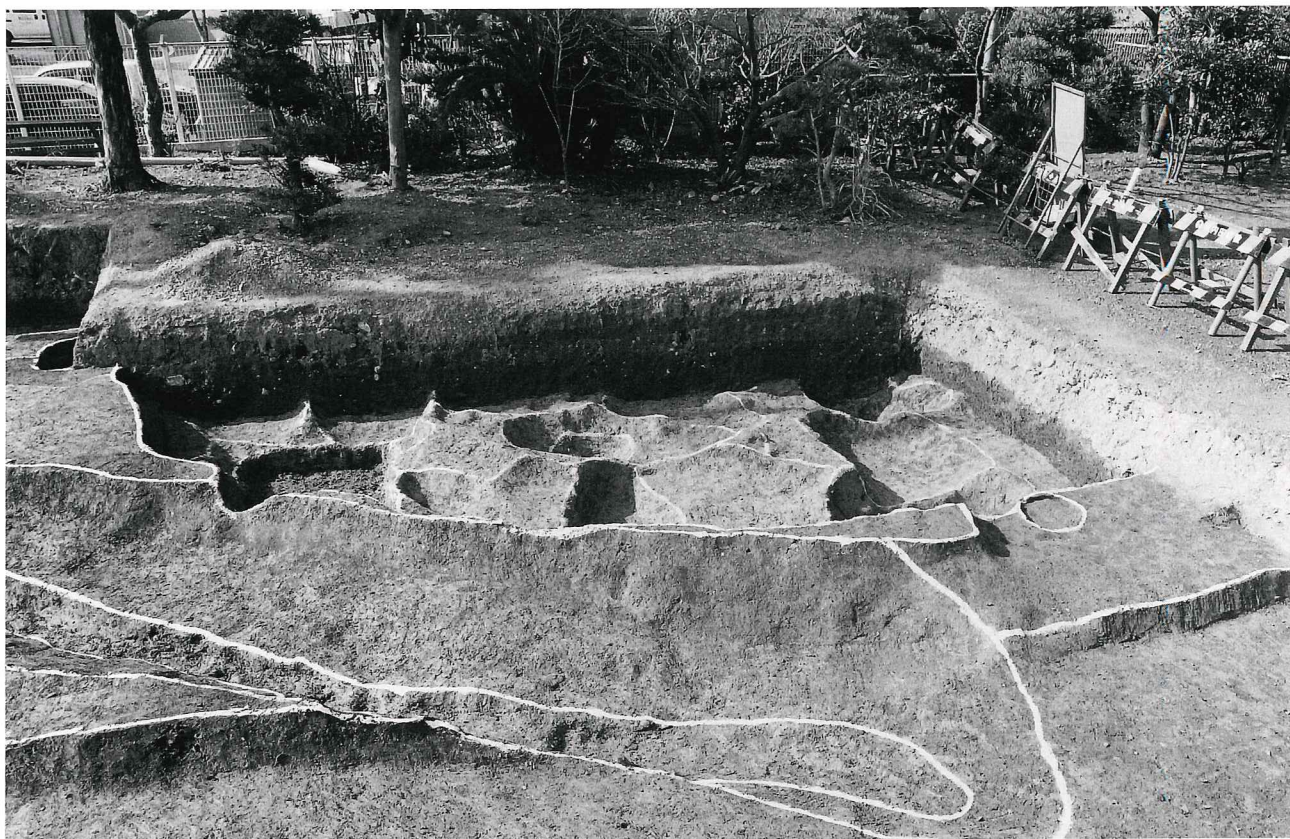
(1) S D30

(奈良時代の溝であるが、S D7新段階の溝よりも古い。S D7との関係や用途は不明である。南より)



(2) S D30土層

(下層が黒色土で弥生中期の遺構の埋土に類似する。北より)



(1) S K38

(江戸末期の大型土坑である。複数の土坑の集合体で、粘土の採掘坑の可能性もある。東より)



(2) S P10

(小穴内に弥生後期の小型壺の破片が埋められていた。埋納遺構か。東より)



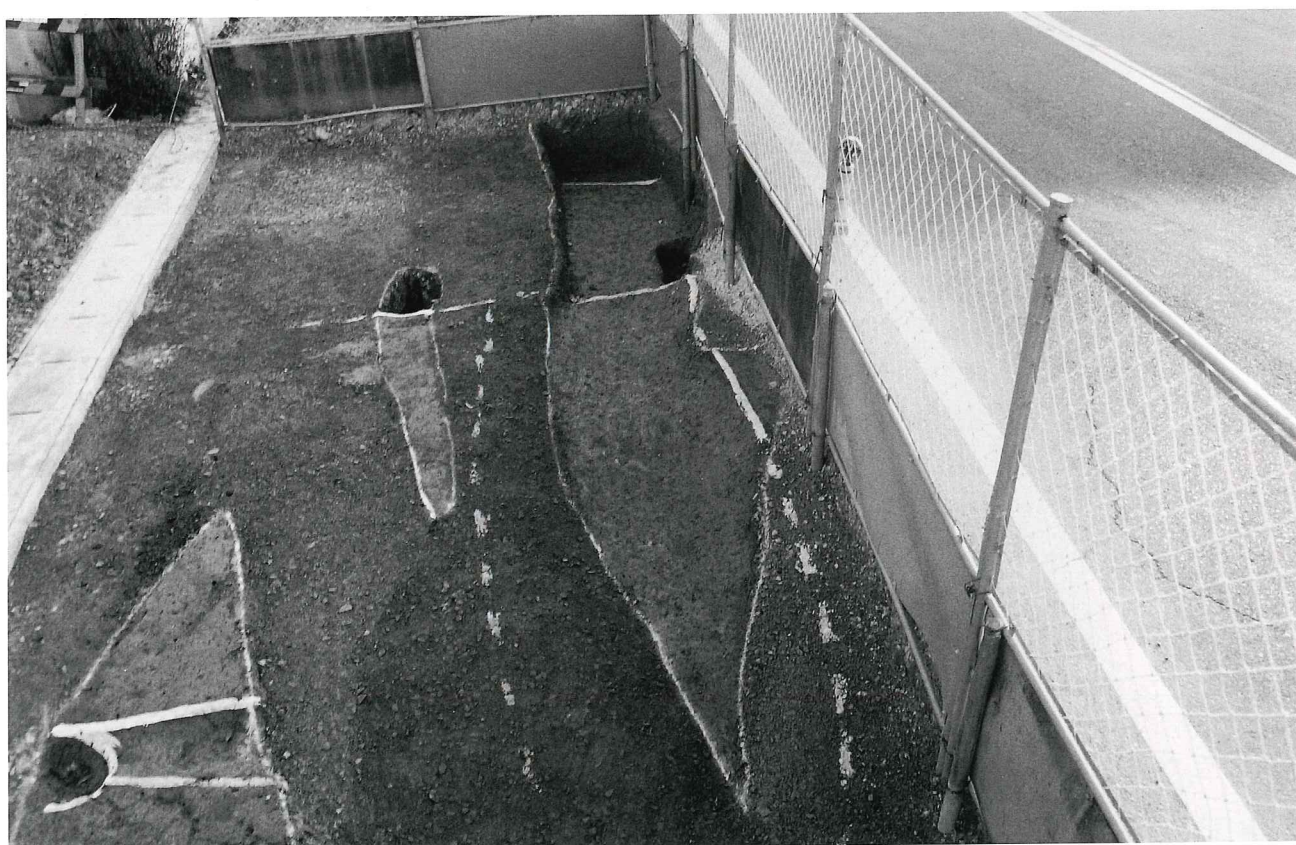
(1) 調査区西壁中央の土層
(包含層はないため、30cmの表土下は地山層となっている。東より)



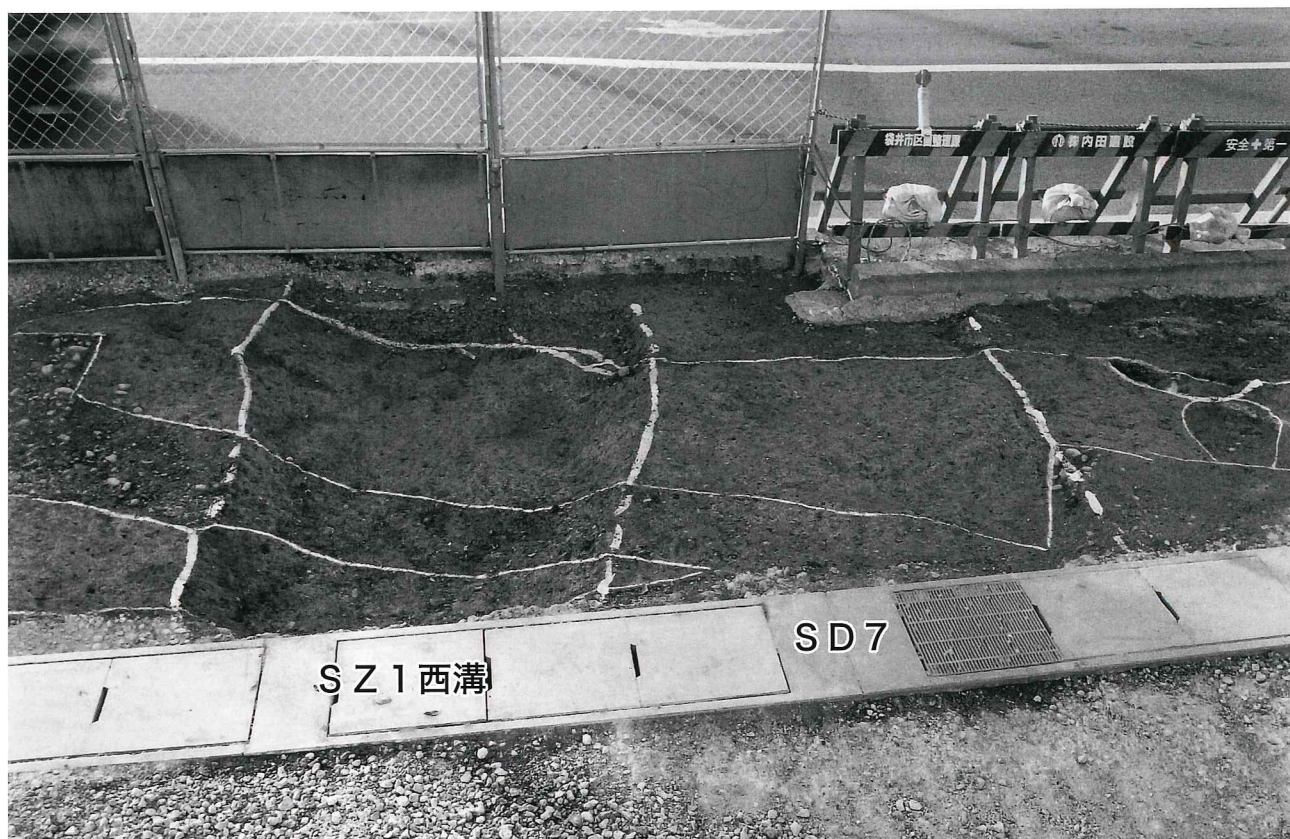
(2) 歩道区1の空中写真全景
(遺構の残存状況は道路内の埋設物のため良くなかったが、S Z 1やS D 7などを検出することができた。東より)



(1) 歩道区1の空中写真全景
(SZ1の東・西溝、西溝の一部と重複してSD7が検出されている。上が北である。真上より)



(2) SZ1東溝 (埋設物のためほとんど破壊されている。西より)



(1) SZ1 西溝 SD7
(奈良時代の区画溝であるSD7とSZ1 西溝が重複して検出された。北より)



(2) 重機による表土掘削作業風景
(包含層が存在しなかったため、遺構確認面まで表土掘削をすることができた。)



(1) 人力による作業風景 (S Z14東溝の土器検出状況。西より)



(2) ラジコンヘリによる写真撮影と測量風景

報告書抄録

フリガナ		カケノウエイセキ シャシンズハンヘン					
書名		掛之上遺跡50・53・56 写真図版編					
副書名		袋井市駅前第二地区土地区画整理事業に伴う発掘調査報告書18					
編集著者名		松井一明					
編集機関名		袋井市教育委員会					
所在地		〒437－1192 静岡県袋井市浅名1028 ☎0538－23－9269					
発行年月日		2007年3月26日					
フリガナ 所収遺跡名		カケノウエイセキ 掛之上遺跡					
フリガナ 所在地		シズオカケンフクロイシタカオカケノウエ 静岡県袋井市高尾掛之上					
コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因	
市町村	遺跡番号	34° 44′ 24″	137° 55′ 53″	20060703	1469.0㎡	袋井市駅前第二地区 土地区画整理事業に伴う宅地造成	
22216	151			～ 20070326			
所収遺跡名		種別	時代	主な遺構	主な遺物		特記事項
掛之上遺跡		集落跡	弥生時代 中・後期	竪穴住居 掘立柱建物 方形周溝墓 土坑	土器・石器・鉄器		弥生時代中・後 期大方形周溝 墓群・拠点集落
			古墳時代 後期 奈良時代	竪穴住居 土坑 大型掘立柱建物 区画溝	土器（土師器・須 恵器） 須恵器		有力集落
			近世	土坑 屋敷地割溝	陶磁器・かわらけ		郡衙正倉院

袋井市駅前第二地区土地区画整理事業に伴う発掘調査報告書18

掛之上遺跡 50・53・56

— 写真図版編 —

発行年月日 2007年3月26日

編集・発行 袋井市教育委員会

袋井市役所都市建設部区画整理課

〒437-8666 静岡県袋井市新屋1-1-1

印刷 松本印刷株式会社

〒437-0013 静岡県袋井市新屋4丁目5番地の2